

シラバスの見方

※この PDF ファイルには目次(しおり)がついています。スマートフォンを使用中の方は画面上の設定等から目次を呼び出してご利用ください。

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	英語Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	高等学校英語教諭
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	23 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	英語による日常会話の力を培うとともに、医療現場で必要とされる基本的な医学用語に習熟し、患者との円滑なコミュニケーションが図れるようにする。 英語のリスニング力を伸長させるとともに、患者と接する上での教養を深めるために世界各国の世界遺産についての理解を深め、またインターネット上の最新の医学にかかわる話題を英語で読み医学に関わる必要な情報を収集する		
授業科目の到達目標	1.学生は英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 2.学生は看護業務に必要なとなる基本的な英語の医学用語を身に付けることができる。 3.学生は英語を用いて患者と看護に関わる基礎的なコミュニケーションをとることができる。 4.学生は最新の医学に関わる話題に興味を持ち、積極的に情報を収集する態度を身に付ける。 5.学生は優しい英語で言われた英語を聞いて理解できるようになる。 6.各国の世界遺産についての知見を広め、患者と接する上での教養を深めることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	Introduction 困った時の英語/診療科名/患者の基本情報（テキスト Unit 1） 医療記事 1	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 1 の復習
2	リスニングー1 （世界遺産 Unit 1ー米国）	DVD 視聴 講義	配布プリントを用いての復習
3	診療の手続き/症状（テキスト Unit 2） 医療記事 2	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 2 の復習
4	リスニングー2 （世界遺産 Unit 2ーオーストラリア）	DVD 視聴 講義	配布プリントを用いての復習
5	入院時オリエンテーション(テキスト Unit 3) 医療記事 3	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 3 の復習
6	リスニングー3 （世界遺産 Unit 3ーイタリア）	DVD 視聴 講義	配布プリントを用いての復習

7	病歴の聴取/病名 (テキスト Unit 4) 医療記事 4	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 4 の復習
8	リスニングー4 (世界遺産 Unit 4ーフランス)	DVD 視聴 講義	配布プリントを 用いての復習
9	検査(テキスト Unit 5) 医療記事 5	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 5 の復習
10	リスニングー5 (世界遺産 Unit 6ー韓国)	DVD 視聴 講義	配布プリントを 用いての復習
11	産婦人科 (テキスト Unit 6) 医療記事 6	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 6 の復習
12	リスニングー6 (世界遺産 Unit 7ーエジプト)	DVD 視聴 講義	配布プリントを 用いての復習
13	中間試験		
14	リスニングー7 (世界遺産 Unit 9ースペイン)	DVD 視聴 講義	配布プリントを 用いての復習
15	小児科/予防接種(テキスト Unit 7) 医療記事 7	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 7 の復習
16	リスニングー8 (世界遺産 Unit 11ートルコ国)	DVD 視聴 講義	配布プリントを 用いての復習
17	手術(テキスト Unit 8) 医療記事 8	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 8 の復習
18	リスニングー9 (世界遺産 Unit 12ードイツ)	DVD 視聴 講義	配布プリントを 用いての復習
19	術後/日常看護(テキスト Unit 9) 医療記事 9	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 9 の復習
20	リスニングー10 (世界遺産 Unit 13ーベトナム)	DVD 視聴 講義	配布プリントを 用いての復習
21	心のケア/文化や宗教の違い(テキスト Unit 10) 医療記事 10	講義 ペアワーク グループワーク	Unit 10 の復習

22	リスニングー11(世界遺産 Unit 14ー英国)	DVD 視聴 講義	配布プリントを 用いての復習
23	認定試験	試験	認定試験の準備

使用テキスト	「クリスティーンのレベルアップ看護英会話」 医学書院 「Exploring World Heritage on DVD II」 成美堂
参考書・資料 等	医療記事のプリント
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	中間試験と認定試験の評価の合計
その他 受講生への要望等	辞書を用意すること。 英会話の練習時は積極的に取り組むこと。 授業で練習したことおよび学習したことを家庭で復習すること。

授業科目名	人間関係論Ⅱ		
実務経験講師		実務経験	
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	近年、医療機関においても、職場ストレスを低減し、各種疾患を予防することが急務となっている。こうした中、職場ストレスの中でも職場の人間関係に起因するストレス負荷について十分に検討することが求められる。本科目では、人間関係を考える上で有益な各種心理学理論を学び、特に医療機関における人間関係について十分に考え、将来に備える知識を手に入れる。		
授業科目の到達目標	1. 人間関係に関する既存の心理学理論を理解し説明することができる 2. 医療機関における人間関係の実際について理解し説明することができる 3. 人間関係について一般性・客観性を重視してとらえることができる 4. これまでの自身の人間関係について内省し、客観視することができる 5. 本科目で紹介する理論や実践を自身の現在の生活に活かすことができる 6. コミュニケーション・ゲームやロールプレイを通して体験的理解が十分にできる 7. 将来の専門性と本科目のテーマを結び付け考え、将来へ活かす準備ができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	ガイダンス・オリエンテーション Key words: 人間関係とは何か 教科書該当章ならびに資料：第 1 章，資料 1	講義	講義内容をまとめる
2	自己表現と他者理解 1 Key words: 自己理解・他者理解，アサーション 教科書該当章ならびに資料：該当なし，資料 1	ワーク	ワーク内容に基づき 得た点や疑問点をまとめる
3	自己表現と他者理解 2 Key words: サイコドラマ 教科書該当章ならびに資料：該当なし，資料 1	ワーク	ワーク内容に基づき 得た点や疑問点をまとめる
4	対人認知 Key words: 印象形成，認知的不協和，原因帰属 教科書該当章ならびに資料：第 2 章，資料 2	講義	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように 活かすことができるかをまとめる
5	パーソナリティとコミュニケーション Key words: 性格理論，非言語的コミュニケーション 教科書該当章ならびに資料：第 3・4 章，資料 3・4	講義	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように 活かすことができるかをまとめる
6	感情と葛藤 Key words: 感情労働，バーンアウト，防衛機制 教科書該当章ならびに資料：第 5・6 章，資料 5・6	講義	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように 活かすことができるかをまとめる

7	ストレス Key words: ストレスコーピング 教科書該当章ならびに資料：第 7 章，資料 7	講義	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように活かすことができるかまとめる
8	ソーシャルサポートと社会的スキル Key words: 援助要請，援助行動，ソーシャルサポート 教科書該当章ならびに資料：第 8 章，資料 8	講義	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように活かすことができるかまとめる
9	対人交流を理解する Key words: 交流分析 教科書該当章ならびに資料：第 19 章，資料 9	講義・演習	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように活かすことができるかまとめる
10	カウンセリング的アプローチと人間関係 Key words: 傾聴，共感，面接法 教科書該当章ならびに資料：第 10 章，資料 10	講義	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように活かすことができるかまとめる
11	カウンセリングの技法 Key words: 傾聴，共感，信頼関係（ラポール） 教科書該当章ならびに資料：資料 11	演習	演習で得たことをまとめる 将来的に臨床においてどのように活かすことができるかまとめる
12	モチベーションと人間関係 Key words: 動機づけ，目標達成，自尊感情 教科書該当章ならびに資料：第 11 章，資料 12	講義	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように活かすことができるかまとめる
13	リーダーシップとコーチング Key words: チーム，タスクフォース，集団 教科書該当章ならびに資料：第 12・13・14 章，資料 13	講義	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように活かすことができるかまとめる
14	人間関係を難しくする障害 Key words: 発達障害，パーソナリティ障害 教科書該当章ならびに資料：第 15 章，資料 14	講義	講義内容をまとめる 将来的に臨床においてどのように活かすことができるかまとめる
15	終講試験		

使用テキスト	『メディカルスタッフのための人間関係論』南山堂
参考書・資料 等	必要に応じて授業内で紹介します。
この授業科目の前提となる主な科目	心理学 人間関係論 I
この授業科目から発展する主な科目	人間関係論 III
成績評価の方法	試験および課題等の評価点を 100 点とし，受講態度に応じて，減点・加点することで総合評価とする。
その他 受講生への要望等	普段の人間関係が将来的に専門職として医療に従事する際に用いられるスタイルとなります。普段築いている人間関係の意味を科学的に考え，それを日常生活へと活かしてください。遅刻，無断の途中退席は認めない。また，携帯電話やその他の電子機器など，授業と関連しないものの使用は認めない。これらは受講態度の減点対象とします。

授業科目名	疾病治療論Ⅳ（腎泌尿器・女性生殖器）		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	この科目では、看護実践の科学的な根拠となる腎泌尿器系、女性生殖器系、それぞれの構造と機能及び、特徴的な疾患・症状・検査・治療について学習する。		
授業科目の到達目標	1.各疾患の病態を説明できる。 2.各疾患の検査と診断基準、症状と予後を説明できる。 3.各疾患の基本的な治療を説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	腎・泌尿器の構造と機能 1.総論 2.泌尿器系の器官 3.尿の生成と排泄	講義 配布資料あり	
2	生殖器系の構造と機能 生殖の生理 1.男性の性機能 2.女性の性機能	講義 配布資料あり	
3	疾患の理解① ・腎不全…急性腎不全・慢性腎不全 ・性行為感染症(STD)…クラミジア感染症、淋病、 性器ヘルペス、梅毒、後天性免疫不全症候群(AIDS)	講義 配布資料あり	
4	疾患の理解② ・ネフローゼ症候群 ・慢性糸球体腎炎 ①IgA 腎症 ②微小変化群 ③巣状 糸球体硬化症 ④膜性増殖性糸球体腎炎 ⑤腎腫瘍	講義 配布資料あり	
5	疾患の理解③ ・糖尿病（1 型/2 型） ・糖尿病腎症 ・低血糖症 ・インスリンノーマ	講義 配布資料あり	
6	疾患の理解③ 泌尿器の概念と解剖 ・尿路の感染症 ・尿路の通過障害と機能障害 ・尿路結石症	講義 配布資料あり	
7	疾患の理解④ ・前立腺肥大症 ・前立腺がん 腎泌尿器系の総復習と確認問題	講義 配布資料あり	
8	女性生殖器系疾患の理解・診断・検査と治療・処置 (1)女性生殖器の構造と機能 教科書 P20～36	講義	

9	(2)症状とその病態生理 教科書 P38～45	講義	
10	(3)診察・検査と治療・処置 A.診察・検査 教科書 P48～73 B.治療・処置 教科書 P74～93	講義	
11	(4)疾患の理解 臓器別疾患 教科書 P101～ 1. 子宮の疾患 ・子宮筋腫 ・子宮内膜症 ・子宮がん	講義	
12	2. 卵管の疾患 ・異所性妊娠 ・不妊症 3. 卵巣の疾患 ・卵巣嚢腫	講義	
13	4. 乳房の疾患 ・乳がん ・乳腺腫瘍 ・炎症	講義	
14	(4)疾患の理解 機能的疾患 教科書 P171～ ・月経異常 ・不妊症 ・不育症	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎 泌尿器 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能・薬理学
この授業科目から発展する主な科目	専門分野Ⅰ・Ⅱ 統合分野
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象及び配分：試験 100%
その他 受講生への要望等	予習復習は自立して行いましょう。

授業科目名	疾病治療論Ⅴ（脳神経・感覚器）		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	この科目では、看護実践の科学的な根拠となる脳神経系、感覚器系、それぞれの構造と機能及び、特徴的な疾患・症状・検査・治療について学習する。		
授業科目の到達目標	1.各疾患の病態を説明できる。 2.各疾患の検査と診断基準、症状と予後を説明できる。 3.各疾患の基本的な治療を説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	第 5 章 疾患の理解 A 脳疾患 ①脳血管障害(CVD) 1.くも膜下出血(検査等含む)	講義	
2	2.脳出血(脳内出血) 3.脳梗塞 (高次脳機能障害・脳圧亢進・髄膜刺激症状含む)	講義	
3	②脳腫瘍 ③頭部外傷	講義	
4	④脳脊髄液(髄液)の異常 C 末梢神経障害 I 認知症	講義	
5	E 脱髄・変性疾患 ②脳・神経の変性疾患 1.パーキンソン病 F 脳・神経系の感染症 ②髄膜炎	講義	
6	C 末梢神経障害 ③ギランバレー症候群 D 筋疾患・神経筋接合部疾患 ①筋ジストロフィー ⑤重症筋無力症	講義	
7	E 脱髄・変性疾患 ①脱髄疾患 1.多発性硬化症 ②脳・神経の変性疾患 3.筋萎縮性側索硬化症	講義	
8	皮膚疾患の理解・診断・検査と治療・処置 (1)総論 (2)皮膚の構造と機能	講義	

9	(3)皮膚科疾患の理解 ①パッチテスト ②アトピー性皮膚炎 ③蕁麻疹 ④ざ瘡 ⑤真菌症	講義	
10	歯・口腔疾患の理解・診断・検査と治療・処置 (1)歯・口腔の構造と機能 (2)歯・口腔の理解 ①咽頭・咽頭がん	講義	
11	耳鼻咽喉疾患の理解・診断・検査と治療・処置 (1)耳疾患の検査・治療 ①中耳炎 ②メニエール病 ③老人性難聴	講義	
12	(2)鼻・咽頭疾患の検査・治療 ①副鼻腔炎 ②アレルギー性鼻炎 ③咽頭・喉頭がん	講義	
13	眼疾患の理解・診断・検査と治療・処置 (1)検査法の種類 ①視力検査 ②屈折検査 ③眼底検査 ④眼圧検査	講義	
14	(2)眼疾患の理解 ①白内障 ②緑内障 ③屈折異常	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経、成人看護学[12] 皮膚、成人看護学[13] 眼 成人看護学[15] 歯・口腔、成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能・薬理学
この授業科目から発展する主な科目	専門分野Ⅰ・Ⅱ 統合分野
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象及び配分：試験 100% (試験配点)脳・神経系の疾患：50%、感覚器系の疾患：50%
その他 受講生への要望等	

授業科目名	疾病治療論VI（救命救急 麻酔・リハビリテーション）		
実務経験講師	○	実務経験	医師、理学療法士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	この科目では、高齢化が進む社会において一層必要とされてきている麻酔・ペインクリニックに関して、看護師として理解しておくべき内容・要求される内容を学ぶ。また、リハビリテーションは、患者と家族の意思決定を前提に、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など多くの専門職種の協働によってなりたつ。リハビリテーションの概念から基本的な実践までを学ぶ。		
授業科目の到達目標	1.麻酔に関する基本的な知識を習得できる。 2.医療従事者として必要となる麻酔の知識を習得できる。 3.他の医療従事者が要求する麻酔に関しての内容が説明できる。 4.ペインクリニックの基礎が説明できる 5.リハビリテーションの概念が説明できる。 6.基本的な検査測定（関節可動域測定、筋力測定）ができる。 7.患者の日常生活動作（更衣動作）や移乗動作、移動動作が介助できる。 8.各疾患のリハビリテーションプログラムの立案を説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1) 講義全体の流れ 総論(手術・ICU・ペイン) 麻酔を学ぶ意味	講義	
2	2) 循環・呼吸管理の基礎 麻酔前投与	講義	
3	3) 全身麻酔の基礎と臨床 主に手術中の麻酔に関して	講義	
4	4) 区域麻酔の基礎と臨床 硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロック	講義	
5	5) 術前回診、患者評価と術前準備、術後鎮痛 6) 手術麻酔まとめ 症例に対して適切な麻酔を考える	講義 個人ワーク グループワーク	
6	7) ペインクリニックの基礎と臨床	講義	
7	8) 緩和ケア	講義	
8	リハビリテーション概論、運動器系（骨折、関節リウマチ） の障害とリハビリテーション	講義	

	関節可動域、筋力測定の概要		
9	関節可動域測定、筋力測定	演習	前回の講義で配布した資料を読んできると。
10	中枢神経系の障害（脳血管障害）とリハビリテーション	講義	
11	中枢神経系の障害（脳血管障害）の更衣動作、移乗動作	演習	前回の講義の内容を復習してくる。
12	中枢神経系の障害（脳血管障害）の起居動作、関節可動域訓練	演習	前々回の講義の内容を復習してくる。
13	呼吸・循環器系（COPD・虚血性心疾患）のリハビリテーション	講義	
14	中枢神経系の障害（パーキンソン病・脊髄損傷）とリハビリテーション	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	別巻 臨床外科看護総論 医学書院 別巻 リハビリテーション看護
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能・薬理学
この授業科目から発展する主な科目	専門分野Ⅰ・Ⅱ 統合分野
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象及び配分：救命救急 麻酔(50%)・リハビリテーション(50%)
その他 受講生への要望等	学内演習前に教科書・配布資料を読んで内容を理解しておくこと。

授業科目名	公衆衛生学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	公衆衛生の概念と歴史を学び、現在の公衆衛生関連の統計情報と保健活動を理解するとともに、健康社会実現に向けて、これからの保健・医療・福祉を考察する基礎となる知識を学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 公衆衛生の実際を学ぶ。 2. 衛生統計に関する情報について説明できる。 3. 保健・医療・福祉における公衆衛生上の課題を考察できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	公衆衛生とは何か・保健統計	講義	
2	感染症	講義	
3	環境と健康	講義	
4	食品衛生	講義	
5	母子保健・学校保健	講義	
6	高齢者保健	講義	
7	精神保健・障害者保健	講義	
8	産業保健	講義	
9	地域保健・行政	講義	
10	疫学・疾病予防	講義	
11	ヘルスプロモーション・生活習慣病	講義	
12	保健・医療・福祉の制度	講義	
13	国際保健・災害保健	講義	
14	復習・過去の国家試験問題での演習	演習	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 医学書院、国民衛生の動向
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	社会福祉学
この授業科目から発展する主な科目	関係法規、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野
成績評価の方法	終講試験 95%、出席 5%

その他 受講生への要望等	特になし
-----------------	------

授業科目名	社会福祉学		
実務経験講師	○	実務経験	介護福祉士、社会福祉士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	従来、医療と福祉は相互に連携することなく、それぞれに行われてきました。しかし近年、利用者を総合的に支えるために、医療・福祉サービスの連携が重要になっています。こうした状況のなか、看護師にとって、社会保障や社会福祉の制度の理解が必須のものになっています。この科目では、高齢者福祉と障害者福祉を中心に、社会保障や社会福祉の制度を学びます。		
授業科目の到達目標	①日本の人口動態を学習し、これからの日本社会のあり方を認識することができる。 ②社会福祉の歴史を学習し、社会的弱者に対する国の方針の移り変わりについて考察することができる。 ③社会保険制度のうち、特に医療保険と介護保険制度について学習し、利用者・家族へ説明できる知識を養うことができる。 ④社会扶助のうち、特に生活保護制度と障害者福祉制度について学習し、社会的弱者に対する制度の知識を養うことができる。 ⑤社会保障制度全般を通して、各専門職との連携のあり方を認識することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	○ 現代社会の変化（第 2 章） 人口動態の変化、高齢化率・合計特殊出生率・ 高齢者のいる世帯構成の推移	講義	高齢化率・合計特殊出生率・ 世帯構成
2	○ 社会福祉の歴史①（第 9 章） 前近代・近代救済の諸相（イギリス救貧法を中心に）	講義	貧困・救済
3	○ 社会福祉の歴史②日本（第 1 章・第 9 章） 近代日本の救済、戦前・戦後の日本の社会福祉 （社会福祉六法を中心に）	講義	社会福祉六法
4	○ 社会保障の全体像（第 1 章） 社会保障の概念・目的・機能・体系 （社会保険と社会扶助を中心に）	講義	社会保険と社会扶助、保険者 と被保険者
5	○ 社会福祉提供のしくみ（第 1 章） 社会福祉の基礎構造（社会福祉事業法と社会福祉法）	講義	措置と契約、応能負担と応益 負担
6	○ 医療保障①（第 3 章） 医療保障制度の沿革、戦前・戦後の健康保険と 国民健康保険	講義	医療保険の対象者、 国民皆保険

7	○ 公的扶助（第 6 章） 貧困・低所得問題公的扶助制度、低所得者対策 （生活保護法を中心に）	講義	生存権、 4 原理・4 原則・8 扶助
8	○ 所得保障（第 5 章） 年金保険、社会手当、雇用保険、 労働者災害補償保険制度	講義	国民年金・厚生年金 児童手当・障害者手当・労災
9	○ 介護保障①（第 4 章） 介護保険制度の目的・理念、介護保険法の保険者・ 被保険者、保険料の支払い、生活保護との関係	講義	自立支援、在宅継続、市町村、 第 1 号・第 2 号被保険者
10	○ 社会福祉の分野とサービス①（第 7 章） 障害者の定義と分類、障害者福祉の理念 （ノーマライゼーションとリハビリテーション）	講義	3 障害、ノーマライゼーション、 リハビリテーション
11	○ 介護保障②（第 4 章・第 7 章） 要介護認定のしくみ、介護保険のサービス体系、 高齢者福祉、高齢者の権利擁護	講義	要介護度、施設サービス、 居宅サービス、高齢者虐待
12	○ 社会福祉の分野とサービス②（第 7 章） 障害者福祉制度変遷（障害者総合支援法を中心に）、 障害者福祉サービス	講義	障害者総合支援法、自立支援 給付、地域生活支援事業
13	○ 社会福祉実践と医療・看護②（第 8 章） 社会福祉実践と医療・看護との連携 授業まとめ②	講義	多職種連携 地域包括ケアシステム
14	○ 社会福祉実践と医療・看護①（第 8 章） 社会福祉援助技術 授業まとめ①	講義	個別援助技術 集団援助技術
15	○ 終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 社会保障・社会福祉（医学書院）
参考書・資料 等	必要に応じて、補助プリントを配布
この授業科目の前提となる主な科目	関係法規
この授業科目から発展する主な科目	専門分野Ⅰ・Ⅱ
成績評価の方法	終講試験
その他 受講生への要望等	今後の実習や国家試験対策だけでなく、就職してから役につく知識の習得を目指します。講義中心の授業になりますが、教員の体験談も交えて授業を展開しますので、積極的に参加して下さい。授業の後は、必ず復習し、知識の習得に努めて下さい。

授業科目名	関係法規		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	看護に携わる者が、国民の健康を守り、与えられた職責をただしく遂行するために、看護関係法令の理解が必要である。この科目では我が国の保健医療福祉に関する諸法令について学習する。		
授業科目の到達目標	1. 法の意義について考えることができる。 2. 看護に関連する各種法律の概要を説明できる。 3. 学習した法規をもとに、看護職としての職務を遂行するための根拠や判断基準がわかる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	法規の概念 (1)社会保障制度の概要、セーフティネット憲法25条 (2)社会保険の概要 (3)国民医療費	講義 講義内でプリント配布	
2	医療保険 年金	講義 講義内でプリント配布	
3	介護保険① 国試過去問題演習	講義 講義内でプリント配布	国試過去問題演習 の復習
4	介護保険② 雇用保険、労災保険、ストレスチェック	講義 講義内でプリント配布	
5	労働関係法規、精神保健福祉法 年次有給休暇とは	講義 講義内でプリント配布	
6	精神障害者の入院形態 医療観察法、生活保護法	講義 講義内でプリント配布	
7	生活保護法、健康増進表法	講義 講義内でプリント配布	
8	社会保障履修内容の確認 保健師助産師看護師法①	講義 講義内でプリント配布	
9	保健師助産師看護師法②	講義 講義内でプリント配布	
10	保健師助産師看護師法 演習問題	講義 講義内でプリント配布	保助看法演習問題 の復習

11	地域保険法 演習問題	講義 講義内でプリント配布	地域保険法演習問題の復習
12	福祉重要事項 医療法	講義 講義内でプリント配布	
13	地域保健に関する法律 国試過去問題演習	講義 講義内でプリント配布	国試過去問題演習の復習
14	社会保障まとめ 国試過去問題演習 修了試験	講義 講義内でプリント配布	国試過去問題演習の復習
15	終講試験		

使用テキスト	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院
参考書・資料 等	授業内で資料等を配布する
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学概論 成人看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	公衆衛生・社会福祉学・専門分野Ⅰ・Ⅱ 統合分野
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象及び配分：試験 100%
その他 受講生への要望等	特になし

授業科目名	基礎看護学 看護研究		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	科学・医学の発展と共に、世界では新しい技術や情報が日々発信されています。医療関係者でなくとも最新の医療情報を Web 上で簡単に得られる時代になり、看護師は氾濫する情報の中から信頼できる最新の情報を基に看護を行うことを求められています。「この看護援助に科学的根拠はあるのか」「より効果的でより効率のよい看護援助を行うためにはどうすればよいか」等、臨床で遭遇するこういった問題に答えてくれるのが研究論文です。この授業では、まず、科学的根拠のある正しい情報の収集方法から研究論文の読み方を学び、臨床に役立つ知識を得る方法を実践の中で身に付けていきます。その後、研究方法について学び、研究計画の立案までを一通り経験することで、知識を得る側から提供する側になるための基礎的な知識を習得します。		
授業科目の到達目標	1. 様々な研究手法の特徴を説明できる 2. 研究計画書の作成意義と作成方法を説明できる 3. 看護観を作成することができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	看護研究とは	講義	
2	看護研究のはじめ方 リサーチクエスチョンをたてる	講義 演習	
3	情報の探索と吟味 文献レビューとその方法	講義 演習	
4	研究における倫理的配慮	講義	
5	研究デザイン 研究の設計と方法の選択	講義	
6	データの収集と分析	講義 演習	
7	研究計画書の作成	講義 演習	課題
8	研究計画書の作成	講義 演習	課題
9	事例研究の進め方	講義	
10	看護観作成	演習	課題
11	看護観作成	演習	課題

12	看護観作成	演習	課題
13	看護観作成	演習	課題
14	看護観発表	演習	課題
15	看護観発表	演習	レポート提出 (期日厳守)

使用テキスト	黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版. メディカ出版, 大阪：2017.
参考書・資料 等	及川慶浩：はじめての看護研究 計画書の書き方編. メディカ出版, 大阪：2013. 及川慶浩：はじめての看護研究 統計学編. メディカ出版, 大阪：2012. ※スマートフォンやタブレット等、インターネットにつながるデバイスを用意してください。授業中に文献検索をしたり、わからないことを調べたりします。
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学実習 各領域実習
成績評価の方法	終講試験 50 点＋レポート 50 点 ※必要に応じて授業への参加態度を評価する。
その他 受講生への要望等	「患者さんの笑顔が見たい」「もっと役に立ちたい」「もっと楽に仕事がしたい」「これ意味あるの?」「このルールほんとに必要?」そんな人間らしい欲求や疑問が多く、研究を生み出しました。ネガティブな気持ちを感じたら、研究のチャンスです。ぜひ一緒にそんな気持ちを研究にしていきましょう! 尚、本科目の単位修得は、基礎看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	基礎看護学実習 B		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	12 日間
単 位 数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	病棟実習において 1 名の患者を受け持つ。身体的・精神的・社会的側面から患者を理解し、ヘンダーソンの看護論に基づいた思考過程を踏みながら患者の持つ課題を把握し、必要な看護を実践する基礎的能力を養う。		
授業科目の到達目標	1.患者の個性性をふまえたアセスメントができる。 2.看護問題の明確化ができる。 3.看護計画の立案ができる。 4.立案した看護計画に沿って実施・評価することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内】 実習オリエンテーション、事前学習 (病態生理、検査、治療、看護)	学内	病態関連図
2	院内・病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集	病棟実習 カンファレンス	看護過程様式 1～3 号
3	情報収集、情報の分類・整理	病棟実習	看護過程様式 1～3 号 関連図
4	優先順位の決定・情報の分析、看護問題の成文化	病棟実習	看護過程様式 1～4 号 関連図
5	情報の分析、看護計画立案	病棟実習 計画発表	看護過程様式 1～4 号
6	情報の分析追加・修正、看護計画追加・修正 看護援助実施	病棟実習	看護過程様式 4 号
7	看護援助実施・アセスメント・計画修正・評価	病棟実習	看護過程様式 4 号
8	【学内】 アセスメント、看護計画・実施・評価	学内	看護過程様式 4 号
9	看護援助実施・アセスメント・計画修正・評価	病棟実習	看護過程様式 4 号
10	看護援助実施・アセスメント・計画修正・評価	病棟実習 カンファレンス	看護過程様式 4 号
11	【学内】 展開した看護過程の振り返り 病態との関連、患者情報との関連	学内	看護過程様式 3 号 看護過程様式 5 号 関連図

12	【学内】 病態との関連、患者情報との関連	学内	看護過程様式 3 号 看護過程様式 5 号 関連図
----	-------------------------	----	---------------------------------

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学概論、基礎看護学方法論 I ～VI、基礎看護学臨床看護総論
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学実習 I ～III、老年看護学実習 II、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	基礎看護学実習 B の受講には、実習前に以下の科目を全て履修している必要がある。 ・基礎看護学概論、基礎看護学方法論 I ～VI、基礎看護学臨床看護総論

授業科目名	成人看護学方法論 I		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	本科目では、生命の危機的状態にある患者における看護を学ぶ。 生命の危機的状態とは、生体侵襲、手術療法を受ける患者を基本とし、生命の危険に対応するための異常の早期発見・合併症予防の理解が必要となる。救急現場においては、緊急性と重症度を判断するための適切な観察や、状態に応じた救命処置が必要となる。生命の危機的状態にある患者を理解するための基本的知識を学び、一時救命処置（BLS）に関しては演習を通し実践力の取得を目指す。		
授業科目の到達目標	1. 急性期看護の特徴と、生命の危機的状況にある患者と家族の看護の特徴が、理解できる 2. 救急医療における看護の特徴について、理解できる 3. 一時救命処置（BLS）の手順・方法を理解し、実践できる 4. 周術期看護（術前看護・術中看護・術後看護）の特徴と、周術期にある患者と家族の特徴が、理解できる 5. 生命の危機的状態にある成人期の患者の特徴について、理解できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	急性期にある患者と家族の理解 ・急性期の概念 ・急性状態にある成人期の患者とその家族の特徴	講義	予習・復習
2	救急医療における看護 ・救急医療の概念 ・救急医療が必要な患者とその家族の特徴	講義	予習・復習
3	一次救命処置（BLS）の実際 ・心肺蘇生の目的と意義・組成ガイドライン ・成人に対する一人法 BLS の方法	講義	課題：BLS の手順 予習復習
4	一次救命処置（BLS）の実践【演習】 ・グループメンバーと協力し、アルゴリズムに沿って BLS を実践する	演習 クラス別 場所：実習室	予習・復習
5	二次救命処置（ACLS）の実際 ・二次救命処置（ACLS）の特徴 ・チームダイナミクスの理解	講義 演習	予習・復習
6	集中治療における看護 ・集中治療室の特徴	講義 演習	予習・復習 事例展開

	・集中治療が必要な患者とその家族の特徴		
7	周術期看護の概論 ・周術期看護の特徴 ・手術を受ける患者とその家族の特徴 ・手術および麻酔に伴う身体侵襲と生体反応	講義	予習・復習
8	術前看護の特徴 ・手術の意思決定への援助 ・不安の緩和、ボディイメージ変容に対する援助 ・術後合併症のリスクアセスメントと援助 ・手術前日、手術当日の看護	講義	予習・復習
9	ハイリスク患者の手術への影響とその看護 ・高血圧 ・糖尿病 ・肥満 ・喫煙 ・高齢者	講義	予習・復習
10	術中看護の特徴① ・手術室の安全管理、環境管理 ・手術室看護師（直接介助・間接介助）の役割	講義	予習・復習
11	術中看護の特徴② ・開腹、開胸、開頭、鏡視（内視鏡）下の手術方法による影響とその援助 ・手術体位、麻酔による影響と援助 ・術直後の生体反応と必要な観察	講義	予習・復習
12	術後看護の特徴① 合併症の理解 ・呼吸器合併症 ・深部静脈血栓、肺塞栓症 ・術後イレウス ・術後出血 ・術後せん妄 ・縫合不全	講義	予習・復習
13	術後看護の特徴② 合併症の予防 ・術後の疼痛管理 ・早期離床の意義、早期回復への援助 ・合併症予防のための観察とアセスメント	講義	予習・復習
14	術後看護の特徴③ 創傷管理、ドレーン管理 ・創傷治癒過程と手術部位感染 ・創部の観察とアセスメント ・ドレーン留置中の観察とアセスメント	講義	予習・復習
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座「成人看護学総論」医学書院 系統看護学講座「臨床外科看護総論」医学書院 系統看護学講座「臨床外科看護各論」医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器 医学書院
--------	---

参考書・資料 等	成人看護学急性期看護Ⅰ「概念・周手術期看護」南江堂 成人看護学急性期看護Ⅱ「救急看護」南江堂 AHA ガイドライン 2020 準拠 ACLS (DVD) AHA ガイドライン 2020 準拠 BLS (DVD)
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 臨床看護総論 人体の構造と機能 疾病治療論全般 成人看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論Ⅱ～Ⅴ 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象及び配分：筆記試験と演習での成果「 塚田 40 点、 古川 30 点、 舘野 30 点」
その他 受講生への要望等	急な展開を予測しながら洞察する力や、救命技術実践においては積極性や行動力、反射力を求めます。救急救命の演習ではチームワークも大切な要素であるためグループで共同して学びができるよう努力を求めます。尚、本科目の単位修得は、成人看護学実習の履修前提条件となります。

4	脳,神経機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護① (くも膜下出血) ・脳卒中の分類、くも膜下出血の病態生理、検査、治療 ・再出血、合併症のアセスメントと予防と看護 ※テキスト (リハビリテーション) P136～195	講義	予習・復習
5	脳,神経機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護② (くも膜下出血) ・機能障害による日常生活動作のアセスメント ・意識障害、頭蓋内圧亢進ある患者の看護 ※テキスト (リハビリテーション) P136～195	講義	予習・復習
6	脳,神経機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護③ ・運動麻痺のある患者の回復期、リハビリテーション期の看護 ・高次脳機能障害のある患者の回復期、リハビリテーション期の看護 ※テキスト (リハビリテーション) P136～195		
7	脳,神経機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護④ (くも膜下出血) ・二次障害予防に必要な看護 (良肢位の支持・関節可動域訓練・筋力維持,増強訓練 座位訓練・歩行訓練・呼吸管理など) ※テキスト (リハビリテーション) P136～195	講義	予習・復習
8	リハビリテーション看護技術① ・機能評価の方法 (意識・運動麻痺・瞳孔) ・麻痺のある患者の筋力低下予防	演習	予習・復習
9	心機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護① (心筋梗塞) ・心筋梗塞の病態生理、検査、治療 ・心臓リハビリテーション ※テキスト (リハビリテーション) P282～299	講義	予習・復習
10	心機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護② (心筋梗塞) ・心機能障害(症状)のアセスメント ・日常生活への影響、セルフケア、再発予防のための看護 ※テキスト (リハビリテーション) P282～299	講義	予習・復習
11	運動器系障害のある患者のセルフケア獲得への支援①(骨折) ・骨折の病態、症状、治癒過程と治療 ・骨折のリハビリテーションプログラム ※テキスト (リハビリテーション) P92～95	講義	予習・復習
12	運動器系障害のある患者のセルフケア獲得への支援②(骨折) ・廃用症候群予防に必要な看護	講義	予習・復習

	(関節拘縮・筋委縮・運動障害・運動麻痺) ・補助具,自助具の種類と活用 ※テキスト (リハビリテーション) P96～106 (成人看護学総論) P241～245		
13	運動器系障害のある患者のセルフケア獲得への支援③ (脊髄損傷) ・脊髄損傷の病態生理、治療 ・運動障害に対する受容と適応への看護 ・日常生活動作のアセスメントと援助 ※テキスト (リハビリテーション) P228～259	講義	予習・復習
14	リハビリテーション看護技術② ・関節拘縮予防技術 ・体位変換・良肢位の保持 (ベッド上でのポジショニング・ROM 訓練・ リラゼーションエクササイズ)	演習	予習・復習
15	終講時試験		

使用テキスト	系統看護学講座専門別巻 11 成人看護学 7 脳神経 医学書院 系統看護学講座専門別巻 14 成人看護学 10 運動器 医学書院 系統看護学講座別巻 3 リハビリテーション看護 医学書院			
参考書 (参考資料等)	同上			
この授業科目を 前提とする主な科目	基礎分野全般	基礎看護学概論	基礎看護学方法論 I ～VI	臨床看護総論
この授業科目から 発展する主な科目	成人看護学方法論 I III IV V	基礎看護学方法論 I ～VI	成人看護学実習 I	成人看護学実習 II 成人看護学実習 III
看護の統合と実践	看護の統合 I	看護の統合と実践	看護の統合 II	
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象及び配分：筆記試験			
その他 受講生への要望等	本科目は、運動器・脳神経・心臓疾患に関する基礎知識をもとに、対象に必要な回復期・リハビリテーション期の看護を学びます。リハビリテーション看護技術の演習では、実践的な観察方法や援助技術を学びます。			

授業科目名	成人看護学 方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	「慢性期」にある患者は生涯にわたり病気と共に生きていくことを余儀なくされています。そのため、日常生活を送る上でのセルフケア能力を身につけ、ADL/QOL が低下することなく維持してくような援助が必要となります。この科目では障害を受容し新しい生活様式を獲得していくまでの援助と、対象自らがコントロールでき自立した生活を目指す援助・成長発達の特徴や健康障害によって影響する生活の ADL/QOL に焦点をあてた看護について学んでいきます。特に、成人が持つ多様な価値観、生活習慣が健康管理に向けてどのように工夫していくことが望ましいかを患者側に寄り添い考えていき対象に応じた「自立」とは何かを自ら述べられるよう支援します。 「病みの軌跡」「セルフケア」「自己効力感」などを基盤に慢性疾患をもつ患者の事例を通して学びを深めます。		
授業科目の到達目標	1. 慢性疾患を持った成人期にある人の特徴と看護を理解し述べることができる 2. 患者および家族の疾病・障害の受容、疾病コントロールのための行動変容プロセスの支援を述べることができる 3. 事例を通して疾病及び治療による生体の変化をアセスメントし、異常の早期発見/早期対処、合併症予防についての援助を考えることができる 4. 疾病および検査・治療に伴う身体的・精神的苦痛に対して援助を考え述べることができる 5. 患者が治療、検査・処置を安全かつ安楽に受けられるように援助を考え述べることができる 6. 健康維持、自立確保のための安全な療養環境を考え述べることができる 7. 患者の ADL/QOL を考慮し、セルフケア能力に応じた日常生活の支援と自立への援助を考え述べることができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	慢性期看護の基礎的知識： 慢性疾患をもつ人への身体的・精神的・社会的特徴と理解 慢性疾患をもつ人への看護援助 テキスト 成人看護学総論 P2 1 4～2 3 1 配布資料	講義	予習 復習
2	呼吸機能障害をもつ人の看護： 慢性閉塞性肺疾患をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴 慢性閉塞性肺疾患をもつ人に必要な検査・治療 テキスト 呼吸器 P11～16 P72～1 3 4	講義	予習 復習

3	呼吸機能障害をもつ人の看護： 慢性閉塞性肺疾患をもつ人のアセスメントの視点 慢性閉塞性肺疾患をもつ人の看護の実際① テキスト 呼吸器 P183 配布資料	講義	予習 復習
4	呼吸機能障害をもつ人の看護： 慢性閉塞性肺疾患をもつ人の看護の実際② テキスト 呼吸器 P321～335 配布資料	講義	予習 復習
5	肝機能障害をもつ人の看護： 肝硬変をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴 肝硬変をもつ人に必要な検査・治療 テキスト 消化器 P228～245 配布資料	講義	予習 復習
6	肝機能障害をもつ人の看護： 肝硬変をもつ人のアセスメントの視点 肝硬変をもつ人の看護の実際 テキスト 消化器 P438～449 配布資料	講義	予習 復習
7	内分泌・代謝障害をもつ人の看護： 糖尿病をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴 糖尿病をもつ人に必要な検査・治療 テキスト 内分泌代謝 P7～14 P132～136 配布資料	講義	予習 復習
8	内分泌・代謝障害をもつ人の看護： 糖尿病を持つ人のアセスメントの視点 糖尿病をもつ人の看護の実際① テキスト 内分泌代謝 P294～302 配布資料	講義 GW	予習 復習
9	内分泌・代謝障害をもつ人の看護： 糖尿病をもつ人の看護の実際② テキスト 配布資料	講義 GW	予習 復習
10	腎機能障害をもつ人の看護： 慢性腎不全をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴 慢性腎不全をもつ人に必要な検査・治療 テキスト 腎・泌尿器 P6～16 配布資料	講義 GW	予習 復習
11	腎機能障害をもつ人の看護： 慢性腎不全をもつ人のアセスメントの視点 慢性腎不全をもつ人の看護の実際 テキスト 腎・泌尿器 P316～324 配布資料	講義 GW	予習 復習
12	難病・膠原病をもつ人の看護： 難病・膠原病をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴 難病膠原病をもつ人に必要な検査・治療、看護の実際 テキスト アレ膠 P10～13 48～51 112～120 124 配布資料	講義	予習 復習
13	感染症をもつ人の看護： 感染症をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴	講義	予習

	感染症をもつ人に必要な検査・治療、看護の実際 テキスト感染症 P200～207 P370～386 配布資料		復習
14	感覚器障害をもつ人の看護： 感覚器に障害をもつ人の特徴、必要な検査・治療 アセスメントの視点、看護の実際 テキスト 耳鼻咽喉 P3～20 228～233	講義	予習 復習
15	終講試験		

使用テキスト	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 1 回目：系看 専門Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 系看 専門Ⅰ 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院 2～4 回目（呼吸機能障害）：系看 専門Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 5～6 回目（肝機能障害）：系看 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 7～9 回目（内分泌・代謝障害）：系看 専門Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 10～11 回目（腎機能障害）：系看 専門Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 12～13 回目（膠原病・感染症）：系看 専門Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 14 回目（感覚器）：系看 専門Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院
参考書・資料 等	同上
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 臨床看護総論 人体の構造と機能 疾病治療論全般 成人看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論Ⅰ ⅢⅣⅤ 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅱ
成績評価の方法	評価対象：筆記試験（茂木…70点 鵜…30点）
その他 受講生への要望等	本科目は慢性期の成人看護という概念のほかに、解剖生理学や消化器・呼吸器・感覚器・内分泌代謝・腎・膠原病・感染性疾患を立体的に意識的に学習していきます。授業では様々な事例を通し人とのかかわりの実際にある看護を想起させ、さらに積極的に知識や技術を学ぶ姿勢を大切にしていきます。また主体性を持ち予習・復習をしていただくことや事例から学んだことから自分の考えや意見を述べることを意識していくこと学習者・看護者としての姿勢を求めます。 尚、本科目の単位修得は、成人看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	成人看護学方法論Ⅳ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	終末期とは病気が現代医学では絶対に治癒しないという診断がなされた時から命を全うするまでの期間のことを言います。この時期の患者さんは身体的な苦痛を伴うだけでなく、残された人生をどのように生きれば良いのかと大きな不安におそわれ、また自分らしさを失ったり、大切にしていることや人を失っていく喪失体験が多くなりがちといわれています。身近な存在である私たち看護師は、患者が少しでもその人がその人らしく幸せで豊かな時間をできるだけ過ごせるように調整する役割があります。患者を孤独にせず、患者に寄り添い、自らの意思を表明できるようにかわりながら生活できるような支援が必要とされます。ここでは患者や家族の気持ちを尊重しながら行う緩和ケアの意義、方法を学んでいきます。		
授業科目の到達目標	1. 緩和ケアの歴史・わが国の現状、世界の現状が理解できる 2. がんの特殊性、患者のQOLを考察する 3. 患者の治療、看護における倫理的配慮、倫理上の問題等について考えることができる 4. 患者の身体的・精神的・心理的・霊的苦痛について考え、看護的配慮を考えることができる 5. 患者の社会的背景、家族の思い等について述べるができる 6. 個人および看護師としての死生観を考察する 7. 終末期にある患者の家族に対して、適切な看護援助を理解し述べるができる 8. 終末期医療におけるチームアプローチの実際と、看護師の役割について考えることができる 9. 自己の課題を意識し、主体的・積極的に学習する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	緩和ケアの現状と展望 緩和ケアの歴史と発展 緩和ケアの理念 緩和ケアの展望 テキスト P2～17 配布資料	講義	予習・復習
2	緩和ケアにおけるチームアプローチ チームアプローチの意義 求められる専門性 メンバーシップ テキスト P20～32 配布資料	講義 グループワーク:議題について 6～7 人のグループで話し合う	課題) 在宅緩和ケアの課題を考える 予習・復習
3	緩和ケアにおけるコミュニケーション コミュニケーションの基本 コミュニケーションスキル 難しい場面でのコミュニケーション テキスト P38～56 配布資料	講義 グループワーク コミュニケーションの実践 「看護師役、患者役を体験しよう」	課題) 自分が癌だったら。家族が癌だったら 予習・復習

4	緩和ケアにおける倫理的課題と意思決定支援 生命倫理の4原則 看護倫理 インフォームド・コンセント アドバンス・ケア・プランニング 緩和ケアの臨床で直面する倫理的課題 テキスト P58～77 配布資料	講義 グループワーク 事例検討	課題) グループワーク内容から看護師として患者・家族のどのように対応しますか？ 予習・復習
5	身体的ケア① 身体的苦痛のマネジメントおもな症状のマネジメント テキスト P80～91 配布資料	講義 グループワーク「ALS 患者の軌跡」	予習・復習
6	身体的ケア② 日常生活を支える援助 (食事・排泄・睡眠・清潔/整容) テキスト P79～106 配布資料	講義 グループワーク「患者さんにこう言われたらどうしますか」	課題) あなたはどう対応しますかについての事例について考える 予習・復習
7	精神的ケア 緩和ケアにおける精神的ケア 対処機構と防衛機構 おもな精神的症状の診断とケア (適応障害・うつ病・せん妄) テキスト P196～232 配布資料	講義 グループワーク「あなたが医師から麻薬を飲みましようと言われたら…」	課題) 事例 A さんにまずどのような対応をしますか。 予習・復習
8	社会的ケア 社会的苦痛 社会的苦痛に対するアプローチ テキスト P116～129 配布資料	講義	予習・復習
9	スピリチュアルケア スピリチュアルの定義 スピリチュアルペインについての考え方 スピリチュアルケアの実践 テキスト P130～150 配布資料	講義 グループワーク「もしあなたが…」	予習・復習
10	緩和ケアの広がり ライフサイクルにおける広がり さまざまな疾患における広がり 療養の場の広がり テキスト P152～221 配布資料	講義 グループワーク「患者 A さんの事例から考える」	予習・復習
11	臨死期のケア 臨死期の概念とケアの目標 臨死期における全人的苦痛の緩和 死亡前後のケア テキスト P224～232	講義	課題) スピリチュアルペインの実際・ケアプランの立案 予習・復習

12	家族のケア 家族の定義と家族ケアのあり方 家族アセスメント 家族ケアの方法 グリーフと遺族ケア テキスト P236～254 配布資料	講義	課題) 知りたい、安心感を与えるケア、役に立ちたいニーズ、自分自身を保つニーズに合わせた声掛け 予習・復習
13	医療スタッフのケア 緩和ケアに関する教育 緩和ケアにおける研究 テキスト P256～287	講義 GW「看護の専門性について」	課題) 看護教育の中で緩和ケア教育がどのように行われているか整理する 予習・復習
14	DVD 鑑賞 (奇跡のホスピス・人生の忘れ物って何ですか?)	講義	DVD 鑑賞
15	終講時試験		

使用テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
参考書・資料 等	同上
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般 基礎看護学概論 基礎看護学方法論 I～VI 臨床看護総論 人体の構造と機能 疾病治療論全般 成人看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論 I III IV V 基礎看護学方法論 I～VI 成人看護学実習 I 成人看護学実習 II 成人看護学実習 III 看護の統合と実践 看護の統合 I 看護の統合と実践 看護の統合 II
成績評価の方法	評価対象：定期試験 評価配分：筆記試験
その他 受講生への要望等	本科目は終末期の成人看護という概念のほかに、解剖生理学や疾患を立体的に意識的に学習しなければ目標の到達は難しいと考えます。授業では様々な事例を通し人とのかかわりの実際にある看護を想起させ、さらに積極的に知識や技術を学ぶ姿勢を大切にしていきます。またグループワークでは主体性を持ち討議していただくこと、技術の演習ではチームワークを意識していくことでより看護師としての姿勢も求めます。 尚、本科目の単位修得は、成人看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	成人看護学方法論Ⅴ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	成人期にある対象は、生産年齢といわれるように社会的な役割を多く担っている段階である。また一方では身体の予備能が低下し、生活習慣の蓄積からくる様々な健康問題が表れる時期でもある。本科目は既習の理論や方法を基に周術期・急性期・回復期・慢性期・終末期の看護過程の展開を通して成人期にある患者への必要な看護援助を実践するために必要な思考過程を踏むことで看護のあり方を検討していく。		
授業科目の到達目標	1. 各健康段階にある成人患者及び家族に及ぼす影響を身体的・精神的・社会的側面から理解できる 2. 各期の特徴を踏まえ、個別性に応じた看護過程が展開できる 3. 成人期対象に合わせた看護行為について看護計画を立案することができる 4. 成人期への効果的な看護援助を表現することができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	・周術期看護の特徴 ・事前学習の内容確認、補足説明 ・事例読み合わせ ・疾患の事前学習の提示（関連図） ・DVD 学習「術前編」	講義 視覚教材使用	提出物：なし 配布物：様式 1 号 2-1 号 関連図 事例
2	・課題（様式 1 号 2-1 号）の内容確認、補足説明 ・周術期の関連図 特徴と書き方 ・DVD 学習「術中編」 ・周術期の病理的状态(様式 2-2 号)のアセスメント方法	講義 視覚教材使用	提出物：様式 1 号 2-1 号 配布物：様式 2-2 号 関連図記入例
3	・課題（様式 2-2 号）の内容確認、補足説明 ・DVD 学習「術後編」 ・周術期における看護問題（成人様式 8 号）のアセスメント方法	講義 視覚教材使用	提出物：様式 2-2 号 配布物：成人様式 8 号
4	・課題（成人様式 8 号）で挙げた、各看護問題 # のアセスメント例について提示 ・周術期における行動計画表（成人様式 9 号）の書き方とその考え方	講義	提出物：成人様式 8 号 （授業前に提出予定） 配布物：様式 8 号 # 記入例 成人様式 9 号
5	・各 # 看護問題でグループ分けを実施 ・個人学習で考えてきた行動計画表（成人様式 9 号）を持ち寄り（発表し合う）、グループ分の成人様式 9 号を完成させる。	講義 グループ学習 ディスカッション	提出物：成人様式 9 号 配布物：成人様式 9 号 （グループ用 1 枚）

6	・【演習】クラス別 6コマ～7コマは続けて行う 各 # 看護問題に対する援助計画を、ロールプレイング形式で発表する。グループ評価→他者評価。	演習 グループ学習	提出物：成人様式 9 号 (グループ用 1 枚事前提出) 配布物：演習資料
7	・【演習】クラス別 6コマ～7コマは続けて行う 各 # 看護問題に対する援助計画を、ロールプレイング形式で発表。発表後、グループ評価→他者評価。	演習 グループ学習	提出物：様式 9 号(個人用) (演習内容を評価し、追加修正したものを後日提出この提出物で、様式 9 号の評価項目を査定する)
8	急性期・回復期・慢性期・終末期看護の方向性や特徴 (健康段階) 事前知識の重要性 (病理的状态の意図的な情報収集)	講義 (Zoom)	提出物：なし 配布物： 授業資料 (事前配布) 既習の臨床看護総論を復習して臨む COPD 事前学習
9	COPD 事例の読み合わせ 事前学習の活用と重要性	講義 全体ディスカッション	提出物：なし 宿題：次回までに様式 2-2 号 (関連図を記入してくる) 配布物：様式 1 号/様式 2-1 号/様式 2-2 号/事例を配布する
10	COPD 患者・家族、慢性期の看護過程展開。 (様式 1 号/様式 2-1 号/様式 2-2 号)の確認。 基本的ニーズの優先順位の考え方 (様式 3-2 号)	講義 全体ディスカッション	提出物：様式 1 号/様式 2-1 号/様式 2-2 号 (関連図) 配布物：様式 3-2 号
11	COPD 患者・家族、慢性期の看護過程展開。 様式 3-2 号用紙の確認。 看護計画立案に対する考え方 (様式 4-1 号)	講義 全体ディスカッション	提出物： 様式 3-2 号用紙提出 配布物：様式 4-1 号
12	各 # 看護問題でグループ分けを実施 個人学習で考えてきた看護計画 (様式 4-1 号) を持ち寄り (発表し合う)、グループ分の様式 4-1 号を完成させる	講義 グループ学習 ディスカッション	提出物：様式 4-1 号 配布物：様式 4-1 号 (グループ用 1 枚)
13	・【演習】クラス別 6コマ～7コマは続けて行う 各 # 看護問題に対する援助計画を、ロールプレイング形式で発表する。グループ評価→他者評価。	演習 グループ学習	提出物：様式 4-1 号 (グループ用 1 枚事前提出) 配布物：演習資料
14	・【演習】クラス別 6コマ～7コマは続けて行う 各 # 看護問題に対する援助計画を、ロールプレイング形式で発表。発表後、グループ評価→他者評価。	演習 グループ学習	提出物：様式 4-1 (個人用) (演習内容を評価し、追加修正したものを後日提出。この提出物で、様式 4-1 の評価項目を査定する)

15	終講試験 まとめ	筆記試験	
----	----------	------	--

使用テキスト	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 スーパーヒロカワ 専門Ⅱ 成人看護学 消化器 医学書院 臨床外科看護総論 医学書院 今日の治療薬 2020 南江堂 専門Ⅱ 成人看護学 呼吸器 医学書院 臨床外科看護各論 医学書院 検査値ガイドブック サイオ出版
参考書・資料 等	成人看護Ⅰ 急性期・周手術期 第2版（パーフェクト臨床実習ガイド）照林社 成人看護Ⅱ 慢性期 第2版（パーフェクト臨床実習ガイド）照林社 周術期看護（ナーシング・グラフィカー成人看護学(4)）メディカ出版 他
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 疾病治療論Ⅰ～Ⅴ 成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 臨床看護総論 基礎看護学実習
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 看護の統合と実践Ⅲ 看護の統合実習
成績評価の方法	塚田（50点） 内訳:看護過程課題 25点、授業参加度 7点、筆記試験 18点（25分） 鵜（50点） 内訳:看護過程課題 25点、授業参加度 7点、筆記試験 18点（25分） * 授業参加度は出席で各1点 * 看護過程の評価は指定された時間で課題を提出すること。時間厳守
その他 受講生への要望等	授業の内容は臨地時実習に継続されるため、自らが主体的に課題に取り組めるよう努力を求める。グループ学習は積極的に参加すること。

授業科目名	老年看護学 方法論 I		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	老年期特有の健康問題をもつ高齢者およびその家族を対象とした看護援助の方法について学びます。また、様々な健康段階にある高齢者について理解を深め、効果的な看護を展開するためのアセスメント技術を修得します。		
授業科目の到達目標	1. 老年期に特徴的な疾病や病態を理解し、高齢者およびその家族を対象とした看護援助方法が理解できる。 2. 様々な健康段階にある高齢者への看護援助方法が理解できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	老年症候群 1 講義：老年症候群とは、フレイル、サルコペニア 使用テキスト：②第 2 章 A 老年症候群の特徴 E フレイル	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
2	老年症候群 2 講義：熱中症、脱水症、発熱 使用テキスト： ①第 6 章 A 症候のアセスメントと看護①発熱、④脱水 ②第 2 章 B おもに急性疾患に付随する症候③熱中症、④脱水症、⑤発熱	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
3	老年症候群 3 講義：痛み、しびれ、浮腫 使用テキスト： ①第 6 章 A 症候のアセスメントと看護②痛み、⑥浮腫 ②第 2 章 C おもに慢性疾患に付随する症候①腰背痛、②手足のしびれ、③浮腫 ③安楽確保の技術	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
4	老年症候群 4 講義：うつ（病）、せん妄 使用テキスト： ①第 6 章 C 認知機能障害のある高齢者の看護①うつ、②せん妄 ②第 4 章 高齢者の疾患の特徴 B 精神・神経疾患③うつ状態（うつ病）	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
5	高齢者のバイタルサイン 講義：フィジカルアセスメント、観察の要点	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を

	使用テキスト： ②第3章 高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 ③呼吸・循環を整える技術		精読する。
6	受療状況に応じた高齢者への看護 講義：高齢者の入退院時の援助、検査時の援助 使用テキスト： ①第7章 A 検査を受ける高齢者の看護、E 入院治療を受ける高齢者の看護 ②第3章 F 高齢者の総合機能評価 ③退院支援、リロケーションダメージへの支援	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
7	薬物療法を受ける高齢者への看護 講義：加齢に伴う薬物動態の変化、薬物療法を受ける高齢者の援助 使用テキスト： ①第7章 B 薬物療法を受ける高齢者の看護 ②第5章 高齢者と薬 ③与薬の技術	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
8	急性期にある高齢者への看護 講義：周術期にある高齢者への援助 使用テキスト： ①第7章 C 手術療法を受ける高齢者の看護	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
9	回復・慢性期にある高齢者への看護 講義：残存機能と評価の方法、リハビリテーションを受ける高齢者の看護 使用テキスト： ①第7章 D リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ②第6章 高齢者のリハビリテーション	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
10	終末期にある高齢者への看護 講義：人生の最終段階（エンド・オブ・ライフ）にある高齢者と家族への援助 使用テキスト： ①第8章 エンドオブライフケア ②終章 ③終末期を迎える高齢者の支援	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
11	高齢者に特有な疾患（感染症） 講義：インフルエンザ、ノロウイルス、疥癬 使用テキスト： ①第6章 B 身体疾患のある高齢者の看護⑦インフルエンザ	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。

	②第４章 N 感染症 ③集団感染予防の技術		
12	高齢者に特有な疾患（認知症） 1 講義：認知症の病態、認知症の症状と経過、認知症の治療と療法的アプローチ、認知機能および生活機能の評価 使用テキスト： ①第６章 C 認知機能障害のある高齢者の看護③認知症 ②第４章 高齢者の疾患の特徴 A 認知症 ③認知症高齢者の理解・支援	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
13	高齢者に特有な疾患（認知症） 2 講義：認知症高齢者とのコミュニケーション方法、認知症看護の原則、急性期一般病床での援助 使用テキスト： ①第６章 C 認知機能障害のある高齢者の看護③認知症 ③認知症高齢者の理解・支援	講義 グループ ワーク	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。 課題プリントをまとめる。
14	高齢者に特有な疾患（認知症） 3 講義：行動・心理症状と生活への影響、認知症をもつ高齢者を介護する家族への支援とサポートシステム 使用テキスト： ①第６章 C 認知機能障害のある高齢者の看護③認知症 ③認知症高齢者の理解・支援	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
15	終講試験		

使用テキスト	①系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院 ②系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院 ③パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・臨床看護総論・基礎看護学方法論Ⅰ・人体の構造と機能Ⅳ 基礎看護学方法論Ⅱ・疾病治療論Ⅴ（脳神経系の疾患）・基礎看護学方法論Ⅴ 精神看護学方法論Ⅱ（認知症）
この授業科目から発展する主な科目	老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学方法論Ⅲ・老年看護学実習Ⅰ・老年看護学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：試験（折田：70点、小林：25点）、課題提出（5%） レポート課題については指定された期日に提出されない場合、0点となります。
その他 受講生への要望等	講義および自己学習をとおして老年看護学実習Ⅰ、看護過程展開演習に活用できる基本的知識を身に付けることを期待します。尚、本科目の単位修得は、老年看護学実習Ⅱの履修前提条件となります。

授業科目名	老年看護学 方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	前期
年 次	2年次	授業回数	15回
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	加齢変化・健康障害の程度に応じた効果的な看護を展開するための看護援助の方法並びに援助技術について学び、実践へつなげていきます。		
授業科目の到達目標	1. 高齢者に特有な症候・障害に対する看護を説明できる。 2. 1. の状態にある高齢者のためのアセスメント方法、残存機能を活かした日常生活援助技術を修得する。 3. 2 を修得し、高齢者の心理に気づくことで、高齢者を尊重した態度を身に付ける重要性を表現することができる。 4. 高齢者その人に合ったコミュニケーションを図る方法を修得する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歩行・移動の援助 講義：歩行・移動動作のアセスメント、歩行・移動動作の援助 使用テキスト： ①第5章 A 日常生活を支える基本的活動 ①基本動作と環境のアセスメント	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
2	転倒・骨折予防の援助 講義：転倒・転落の発生要因、転倒・転落の予防のための援助 使用テキスト： ①第5章 A 日常生活を支える基本的活動 ②転倒のアセスメントと看護 ②第2章 老年症候群 D おもに ADL 低下に合併する症候 ①転倒・骨折 ③環境調整技術	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
3	廃用症候群予防の援助 講義：廃用症候群の病態と要因、廃用症候群予防のためのアセスメント、廃用症候群予防のための援助 使用テキスト： ①第5章 A 日常生活を支える基本的活動③廃用症候群のアセスメントと看護	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
4	コミュニケーション障害への援助Ⅰ 講義：コミュニケーションを阻害する影響要因（視覚障害・聴覚障害）、コミュニケーション能力のアセスメント 使用テキスト：	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する

	①第5章 F コミュニケーション		
5	コミュニケーション障害への援助 2 講義：老年者とのコミュニケーションの方法 使用テキスト： ①第5章 F コミュニケーション ③情報・ヒストリー聴取の技術	講義 演習 グループ ワーク	*夏休みの課題として身近にいる高齢者の人生、生活史のインタビューを実施。 *加齢変化を踏まえ高齢者の心理に配慮した態度や声掛けをGWする。
6	食事の援助 1 講義：低栄養状態のアセスメント 使用テキスト： ①第5章 B 食事・食生活 ③栄養・食事援助技術	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
7	食事の援助 2 講義：摂食・嚥下障害のアセスメント、摂食・嚥下障害への援助 使用テキスト： ①第5章 B 食事・食生活 ②第2章 老年症候群 D おもに ADL 低下に合併する症候④嚥下障害 第4章 高齢者の疾患の特徴 M 歯・口腔の疾患	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
8	食事の援助 3 講義：誤嚥性肺炎の予防と援助 使用テキスト： ①第5章 B 食事・食生活 ②第4章 高齢者の疾患の特徴 D 呼吸器系の疾患①高齢者肺炎	演習 講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する 演習後レポート提出。
9	排泄の援助 講義：排泄（尿失禁、便秘・下痢）のアセスメント、尿失禁への援助 便秘・下痢の予防と援助 使用テキスト： ①第5章 C 排泄 ②第2章 老年症候群 D おもに ADL 低下に合併する症候②排尿障害、③便秘 ③排泄援助技術	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
10	睡眠・休息への援助 講義：生活リズムを調整する意義、活動と休息のアセスメント、老年者の睡眠の特徴	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する

	使用テキスト： ①第5章 E 生活リズム ③活動・休息援助技術		
11	清潔・衣生活の援助 1 講義：清潔の意義、清潔・衣生活のアセスメント、清潔・衣生活の援助、入浴時の援助・入浴事故 使用テキスト： ①第5章 D 清潔 ③清潔・衣生活援助技術	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
12	清潔・衣生活の援助 2 講義：老年者に特徴的な皮膚の障害 使用テキスト： ①第5章 D 清潔 ②第4章 高齢者の疾患の特徴 K 皮膚の疾患の特徴 ③皮膚管理技術	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
13	技術の統合 口腔ケア・義歯の取り扱い おむつ交換	演習 クラス別	講義で修得した既習の知識と基礎看護学の技術を統合し実施する演習。演習後の振り返りレポート提出あり
14	各ポジショニングの体圧測定		
15	終講試験		

使用テキスト	①系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院 ②系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院 ③パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅳ 老年看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	老年看護学方法論Ⅲ 老年看護学実習Ⅰ～Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象及び配分：試験90点（小堀80点 伊藤10点）レポート点10点
その他 受講生への要望等	この科目は、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱに繋がる講義・演習です。老年看護学実習において対象に合った日常生活援助を提供するために必要な知識・技術を習得することが主要となります。この科目での学びを基に老年期にある人の日常生活状況や生活史に関心がもてるようになることを期待します。尚、本科目の単位修得は、老年看護学実習Ⅱの履修前提条件となります。

授業科目名	老年看護学 方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	加齢に伴う変化、慢性疾患、健康障害をもちながら、老年期にある人が、その人らしく生活することを支える看護過程の展開方法を学習します。		
授業科目の到達目標	1. 事前学習を基にアセスメントに必要な情報を選択し、記載することができる。 2. 現疾患の原因・誘因を加齢変化や既往歴・併存疾患と関連づけて記述できる。 3. 主要症状の原因と受けている治療の目的を、加齢変化や高齢者の疾患の特徴と関連づけて記述できる。 4. 健康障害・加齢変化が基本的欲求に及ぼす影響について記述できる。 5. 対象の健康段階に応じた優先順位の決定・目標設定が記述できる。 6. 加齢変化や併存疾患による症状に考慮した看護計画が立案できる。 7. 加齢変化・健康障害をもちながらも地域でその人らしく暮らすために必要な社会資源を記述できる。 8. 老年期にある人の生活史や時代背景に関連する価値観について深く考えることをとおして自己の老年観を養う。 9. 自ら学習計画を立て実施できる自己学習能力、グループワークをとおして他者を理解し、自己を表現できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	老年看護学における看護過程の考え方 看護過程展開に必要な事前学習の内容確認 私のイメージする老年観とは 事例の患者説明 【現疾患】誤嚥性肺炎 【併存疾患】高血圧・ラクナ梗塞・認知症 配付資料：事例 老年看護学記録：看護過程様式 1 号（常在条件） ①高齢者理解シート 使用テキスト： ①第 6 章 B 身体疾患のある高齢者の看護⑧肺炎 ②第 4 章 D 呼吸器系の疾患①高齢者肺炎 ④第 2 章 A 呼吸器の構造、B 呼吸の生理、第 5 章 A 感染症③肺炎、第 6 章 E 疾患をもつ患者の看護①肺炎患者の看護	講義	【夏期休暇中の課題】 ・肺の構造・誤嚥性肺炎・肺炎急性期の看護についてレポートにまとめる。 ・看護過程様式 6 号に個人目標を挙げる。 ・基本情報を基に看護過程様式 1 号を記入する。 ・「高齢者理解のための生活史年表」および栃木市の HP を参考に、老年実習Ⅱ様式 1 号（健康歴・生活歴理解シート）に対象の生きてきた時代背景・栃木市の情報をまとめる。 以上夏期休暇明けに提出。 提出

			・看護過程様式 1 号 夏休み明け：事前学習
2	老年期にある人の病理的状態のアセスメント 検査-データ・治療内容のアセスメント 情報の記入 関連図の記入 配布資料：看護過程様式 2-1 号（病理的状態） 2-2 号（関連図） 使用テキスト： ①第 1 章 ②加齢に伴う身体的側面の変化、第 6 章 B 身体疾患のある高齢者の看護⑧肺炎、第 7 章 B 薬物療法を受ける高齢者の看護 ②第 4 章 D 呼吸器系の疾患①高齢者肺炎、第 3 章 D 検査 ③血液検査 ③ I 高齢者看護の基本技術 与薬の技術 ④第 5 章 A 感染症③肺炎 エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 検査値ガイドブック その他高血圧・ラクナ梗塞・認知症については①②③および系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学[3]循環器・[7]脳・神経参照。 【キーワード】 高齢者の疾病の特徴・高齢者の血液データ・加齢に伴う薬物動態の変化	講義 演習（紙上事例）	看護過程様式 2-1 号 ・情報の記入および情報の読み取り ・血液検査項目の名称・基準値の記入 看護過程様式 2-2 号 ・関連図に現疾患・併存疾患の疾患関連図を記入 * 関連図の提出については、指定の日時に提出する 提出 ・看護過程様式 2-1 号
3	加齢に伴う感覚機能の変化をふまえたコミュニケーション能力のアセスメント 転倒・転落のリスクアセスメント 関連図に追加 配布資料：②コミュニケーション能力アセスメントシート ③転倒・転落リスク確認シート 使用テキスト： ①第 4 章 B 身体の変化とアセスメント②視聴覚とそのほかの感、覚第 5 章 F コミュニケーション、第 5 章 A 基本動作と環境のアセスメント②転倒のアセスメントと看護 ② I 高齢者看護の基本技術 安全管理の技術 【キーワード】 加齢に伴う視聴覚機能の変化、転倒の内的・外的要因	講義 演習（紙上事例）	提出 ・授業シート ②コミュニケーション能力アセスメントシート ③転倒・転落リスク確認シート

4	関連図作成 事前学習の病態関連図から紙上事例の情報から全体関連図を作成（各授業で実施した事例情報を関連図に追加し全体関連図に仕上げる）	講義 演習	提出 看護過程様式 2-2 号
5	高齢者のもつ価値観 関連図に追加 配付資料：⑤価値観シート 使用テキスト： ①第4章ヘルスアセスメントの基本①ヘルスアセスメントの枠組み⑤生活史のアセスメント ③Ⅰ 高齢者看護の基本技術情報 ヒストリー聴取の技術 老年看護学方法論Ⅱ 講義資料 【キーワード】 時代背景に関連する人生の経験の多様性、生活史	講義 演習	提出 授業シート ⑤価値観シート
6	加齢に伴う社会的側面の変化をふまえた社会的役割の状態のアセスメント 関連図に追加 配布資料：家族の状況 ⑥社会的役割の状態シート 使用テキスト： ①第1章 C 老いを生きるということ②発達と成熟、第9章 第5章 H 社会参加、C 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 老年看護学概論講義資料 【キーワード】 加齢に伴う社会的側面の変化、老年期の発達課題、生きがい、家族の役割と機能		提出 授業シート ⑥社会的役割の状態シート
7	①高齢者の特徴を踏まえた14項目のアセスメント項目、必要な視点（体力・意思力・知識を意識する）を考える ②紙上事例の情報から事例患者の未充足を考える ③未充足となる項目とそれに関連する項目の分析 ④個人ワーク	講義	
8	①②グループワーク	グループワーク 演習 （紙上事例）	
9	看護過程の展開 # 1 立案 配付資料：看護過程様式 3-2 号	講義 演習	看護過程様式 3-2 号 看護計画立案を完成し次回のグル

	看護過程様式 4-1 号 4-2 号 個人ワーク 使用テキスト：老年看護学方法論Ⅱ講義資料	(紙上事例)	ープワークに臨む。
10	# 1 看護計画立案 グループワーク 個人ワークの追加・修正 【キーワード】 安全・安楽、日常生活の継続、自立生活の維持・拡大、多職種との連携	講義 演習 (紙上事例)	グループワーク 意見交換し個人ワークの追加・修正し指定の日時に提出 提出 看護過程様式 3-2 号 看護過程様式 4-1 号 4-2 号
11	活動と休息のバランスに考慮した行動計画の立案① 個人ワーク 配付資料：老年実習Ⅱ様式 6 号（行動計画） 使用テキスト： ①第 5 章 E 生活リズム ③Ⅰ高齢者看護の基本技術 活動・休息援助技術 ⑤P105 日々の行動計画 【キーワード】生活リズムの回復・治療計画との調整	講義	
12	活動と休息のバランスに考慮した行動計画の立案② グループワーク/発表	演習 (紙上事例)	提出 看護過程様式 6 号（行動計画）
13	地域で暮らすための社会資源の活用 配布資料：社会資源シート 使用テキスト： ①第 2 章②高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 ③高齢者とソーシャルサポート、B 高齢社会における保健医療福祉の動向②介護保険制度の整備、第 8 章エンドオブライフケア ③Ⅱ高齢者の生活支援 介護家族支援・終末期を迎える高齢者の支援 地域療養を支えるケア/メディカ出版 【キーワード】 エンドオブライフケア・高齢者の人間らしさを守るケアの基本	講義 演習 (紙上事例)	対象および家族に必要な社会資源を完成し次回のグループワークに臨む。 提出 なし
14	地域で暮らすための社会資源の活用 配布資料：グループワークシート	グループワーク	グループワーク・発表により意見交換を行い個人ワークの追加・修正し最終提出時に提出。
15	終講試験・看護過程展開全体のとまとめ 使用テキスト：⑤P146 参考資料 老年看護学実習Ⅱ記載例	筆記試験 講義	看護過程展開全体をとおしての振り返り・老年観をまとめ講義終了時にこれまでの課題全てを最終提出。

使用テキスト	①系統看護学講座専門Ⅱ 老年看護学/医学書院 ②系統看護学講座専門Ⅱ 老年看護病態・疾患論/医学書院 ③パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護/照林社 ④系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器/医学書院 ⑤看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践/スーヴェルヒロカワ
参考書・資料 等	エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図/中央法規出版 今日の治療薬/南江堂 検査値ガイドブック/サイオ出版 地域療養を支えるケア/メディカ出版 老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ講義資料
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	老年看護学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価対象および配点：看護課程課題提出50点・筆記テスト50点 レポート課題が提出されない場合は0点となります。また、他人の記録のコピーや書き写し、データの使いまわし等があった場合は、該当課題を評価外とします。
その他 受講生への要望等	現在みえている患者像は疾患の経過においても人生においても一過程です。老年期にある対象を様々な側面からアセスメントすることで、対象から語られることのない体験・価値観について想像する力を養うことを期待します。老年看護学実習Ⅱと同じ記録様式を用いて進めていくため、この講義の中で老年期にある人の看護過程展開が理解できるようにしましょう。毎回資料を配付しますので、各自A4サイズのリングファイルを準備し管理して下さい。尚、本科目の単位修得は、老年看護学実習Ⅱの履修前提条件となります。

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	12 日間
単 位 数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	シルバー大学校、介護老人福祉施設、介護老人保健施設での実習をとおり、多様な場で生活する老年者の特性と老年者を支援する職種間の協働・連携のあり方について学びます。		
授業科目の到達目標	1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化が理解できる 2. 加齢変化が対象の健康・生活に及ぼす影響を理解できる 3. 老年期にある対象の生活を支える職種の役割および連携について理解できる 4. 老年期にある対象の価値観の多様性を理解し、尊重した態度がとれる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	学内オリエンテーション	【学内】 地域で生活する老年者から講義・インタビュー・観察から学ぶ	老年看護学実習Ⅰ 記録様式4号
2	地域で生活する老年者の加齢に伴う変化 老年者が社会の中で果たしている役割 地域で生活する老年者インタビュー・観察まとめ		
3	【学内】 学内インタビュー・講義まとめ	個人ワーク	老年看護学実習Ⅰ 記録様式4号
4	施設オリエンテーション 介護老人福祉施設の概要 介護老人福祉施設で働く看護師および他職種の役割	【施設実習】 介護老人福祉施設実習	老年看護学実習Ⅰ 記録様式2-2号
5	介護老人福祉施設で生活する老年者の生活状況・健康状態 老年者とのコミュニケーション 認知症をもつ老年者とのコミュニケーション		
6	【学内】 介護老人福祉施設実習まとめ	個人ワーク	老年看護学実習Ⅰ 記録様式2-1号
7	施設オリエンテーション 介護老人保健施設の概要	介護老人保健施設実習	老年看護学実習Ⅰ 記録様式2-1号
8	通所型サービスを利用する老年者の健康状態		
9	入所型サービスを利用する老年者の健康状態 加齢に伴う変化を考慮した日常生活援助方法		
10	介護老人福祉施設で働く看護師および他職種の役割		

11	介護老人保健施設における安全管理 介護老人福祉施設で生活する老年者の生活状況・健康状態 老年者とのコミュニケーション 認知症をもつ老年者とのコミュニケーション		
12	【学内】 介護老人保健施設実習まとめ 老年看護学実習Ⅰ全体をとおしての振り返り	個人ワーク	老年看護学実習Ⅰ 記録様式1～3号

使用テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社
参考書・資料 等	地域療養を支えるケア/メディカ出版 老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ講義資料
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	老年看護学方法論Ⅲ・老年看護学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	既習の知識・技術をもとに老年期にある対象と積極的にコミュニケーションをはかってみましょう。なお、老年看護学実習Ⅰの受講には、実習前に老年看護学概論の単位を修得している必要があります。

授業科目名	小児看護学 方法論 I		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	小児看護学概論で学んだ成長発達概念と各時期の特徴をベースとし、健康な子どもの人体の構造と機能や栄養について学習を行い、それらを発展させ、子どもが健康な生活を送るために必要な援助を理解します。また、実際にロールプレイを行い、子どもと関わるための基礎的な実践能力も養います。		
授業科目の到達目標	1.小児の人体の構造と機能の特徴を述べることができる 2.小児の栄養の特徴と援助方法について述べるができる 3.小児各期の特徴を関連付けて接し方を考えることができる。 4.小児各期の特徴を踏まえた上で関わり方や支援について討論することができる 5.小児の状況に応じた関わり方について演示することができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	小児の人体の構造と機能① 呼吸 循環 体温 消化器 * 概論第 4 章 A-2.3 第 5 章 A-2・B-2 総論第 4 章	講義	該当部分の人体の構造と機能を復習した上で授業に臨むこと
2	小児の人体の構造と機能② 血液・免疫 水分出納 神経 皮膚 感覚器 * 概論第 4 章 A-2.3 第 5 章 A-2・B-2 総論第 4 章	講義	該当部分の人体の構造と機能を復習した上で授業に臨むこと
3	小児の栄養と食事援助 子どもにとっての栄養の意義 食事摂取基準 発達段階別の子どもの栄養 * 概論第 3 章 パーフェクト P11～P25	講義 体験学習 (離乳食の試食)	
4	乳幼児期の親子関係 小児の母子相互作用 家族の育児技術支援 * 概論第 4 章 A-4・B-7.8 パーフェクト P26～P48 P63～P68	講義	
5	小児と関わるための基礎知識（主に乳幼児期） 遊びの意義と発達支援 小児とのコミュニケーション * 概論第 4 章 B-4～6.8 第 5 章 A-4～6.8・B-8 パーフェクト P2～P6 P57～P62	講義	
6	学童期～思春期の特徴と看護 身体的特徴 健康増進のための関り * 概論第 5 章 B 第 6 章	講義	概論で学習した成長・心理社会的側面を復習した上で授業に臨むこと

7	子どもの特徴を踏まえた関わり方と支援 グループ分け、対象の年齢のみ教員が指定。グループで場面設定を行い関わり方と支援について発表。	ロールプレイ発表	構成や内容を検討するグループワークは課題学習等の時間を活用
8	終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 照林社
参考書・資料 等	小児看護学概論配布時の成長発達に関するプリント 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学 医学書院 ナーシンググラフィカ 臨床栄養学 メディカ出版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 栄養学 基礎看護学方法論Ⅱ 小児看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	小児看護学方法論Ⅱ～Ⅲ 母性看護学方法論Ⅲ 小児看護学実習
成績評価の方法	評価方法：課題点…7回目出席で評価、終講試験…授業最終回（50分で実施） * 個々の課題取り組み状況は判断できないので7回目の出席を課題点として評価します 評価配分：7回目出席で5点＋ペーパー試験95点
その他 受講生への要望等	1. 既習の知識が理解できていることが前提で授業を構成しています。よって、各授業の前にはベースとなる既習の部分を復習した上で授業に臨むようにして下さい。 2. ロールプレイでは恥ずかしがらず、それぞれの役になりきって演じて下さい。そうすることで学習目標の達成に繋がります。 尚、本科目の単位修得は、小児看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	小児看護学 方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	医師、看護師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	小児の成長・発達に伴う解剖学的、生理学的な変化を念頭に、小児疾患とそれに伴う合併症について理解を深めます。さらに、健康障害が小児や家族に及ぼす影響について学びを深め、小児看護に共通する看護展開の基礎的知識・技術を身につけます。		
授業科目の到達目標	1.小児特有の疾患・障害と成長発達の因果を関連付け説明することができる。 2.各疾患・障害の主な症状について述べることができる。 3.各疾患・障害の主な検査と結果について述べることができる。 4.各疾患・障害の主な治療方法について述べることができる。 5.健康障害が小児や家族に与える影響について解釈を述べることができる。 6.小児の成長発達を考慮した看護計画について見解を示すことができる。 7.教授された知識を活用しワークを実践することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	小児救急、トリアージ 呼吸障害・ショック・意識障害の評価と対応 * 総論第 4、5 章 配布資料	講義	予習・復習
2	染色体異常、先天感染 ダウン症候群、ターナー症候群、先天性風疹症候群 * 各論第 1、6 章 配布資料	講義	予習・復習
3	内分泌疾患 成長障害と下垂体疾患、甲状腺疾患 * 総論第 2 章、各論第 4 章 配布資料	講義	予習・復習
4	免疫疾患・アレルギー性疾患 原発性免疫不全症、食物アレルギー、気管支喘息 * 各論第 5 章 配布資料	講義	予習・復習
5	感染症 ウイルス感染症、細菌感染症と予防接種 * 各論第 6 章 配布資料	講義	予習・復習
6	呼吸器疾患、事故 上・下気道疾患、気道異物 * 各論第 7、19 章 配布資料	講義	予習・復習
7	循環器疾患 先天性・後天性心疾患、川崎病 * 各論第 8 章 配布資料	講義	予習・復習

8	消化器疾患 肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、乳幼児下痢症 * 各論第 9 章 配布資料	講義	予習・復習
9	腎・泌尿器疾患、脱水症 先天性腎尿路奇形、糸球体疾患、脱水症 * 総論第 5 章、各論第 12 章 配布資料	講義	予習・復習
10	神経疾患 けいれん性疾患、中枢神経感染症、筋疾患 * 各論第 13 章 配布資料	講義	予習・復習
11	精神疾患 発達障害（注意欠如多動症、自閉スペクトラム症） * 各論第 18 章 配布資料	講義	予習・復習
12	小児・家族の病気や入院の捉え方と介入方法 年齢別の病気の認識 認識に応じた関わり方 * 総論:第 1 章.第 2 章 A 配布資料	講義	
13	第 12 回個人ワークの解説 小児看護領域における看護計画の特徴① 観察計画立案の方法 援助計画立案の方法	講義	
14	第 13 回個人ワークの解説 小児看護領域における看護計画の特徴② 指導計画立案の方法 水分出納把握の方法	講義	
15	終講試験	筆記試験	

使用テキスト	（五十嵐）系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論 医学書院 （五十嵐・湯村）パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第 2 版 照林社 （湯村）系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 医学書院
参考書・資料 等	（湯村）小児看護学概論配布時の成長発達に関するプリント （湯村）小児看護学方法論Ⅰ配布時の小児の人体の構造と機能のプリント
この授業科目の前提となる主な科目	疾病治療論Ⅰ～Ⅴ 基礎看護学方法論Ⅵ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	小児看護学方法論Ⅲ 母性看護学方法論Ⅲ 小児看護学実習
成績評価の方法	評価時期：終講試験…授業最終回（50 分で実施） 評価配分：試験（五十嵐:80 点．湯村:20 点）
その他 受講生への要望等	1.基礎となる科目の理解の上で授業が進んでいきます。よって、シラバスを毎回参照し、該当する部分の基礎となる科目の範囲を予習して授業に臨んで下さい。 2.小児看護の基礎知識となります。復習を行い知識の定着を図って下さい。 尚、本科目の単位修得は、小児看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	小児看護学 方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	健康な子どもの理解に基づき、健康問題が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、療養状態に応じた看護を知識だけでなく、実践的側面も併せて学習を行います。また、これらの知識を統合して、成長発達の過程にある小児期の看護過程展開について学びます。		
授業科目の到達目標	1.子どもの健康段階に応じた一般的な看護について記述することができる。 2.健康障害や入院が子どもと家族に与える影響について説明することができる。 3.小児病棟で必要な基礎看護技術について根拠に基づいて実行することができる。 4.小児看護過程の特徴について気づきを示すことができる。 5.ポイントに従って小児看護過程を実践することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	小児の安全について 誤飲 溺水 熱傷 心肺蘇生 *各論第 19 章 総論第 6 章 C-⑩	講義	
2	新生児の看護 低出生体重児の看護 NICU の実際 *各論第 2 章	講義	
3	手術を受ける子どもの看護 特徴 身体的・心理的・家族ケア 臨床での実際 *総論第 3 章 C	講義	
4	急性症状のある子どもの看護① 特徴 看護師の役割 フィジカルアセスメント（呼吸・循環） *総論第 3 章 B・第 4 章 B・第 5 章④～⑦	講義	
5	急性症状のある子どもの看護② 疼痛・呼吸困難・発熱・脱水を有する小児の看護 *総論第 4 章・第 5 章③④⑨⑬	講義	
6	慢性疾患をもつ子どもの看護① 特徴 慢性状態の子どもと家族の看護 白血病 *総論第 3 章 A 各論第 11 章 B-2・C-1	講義	
7	慢性疾患をもつ子どもの看護② 糖尿病 ネフローゼ症候群 小児の在宅医療 *各論第 3 章 C-1 第 12 章 C-1 総論 2 章 C	講義	

8	予後不良の子どもの看護 特徴 子どもの死の捉え方 子どもと家族の看護 ＊総論第3章D	講義	
9	【学内演習】小児看護に必要な技術① 点滴準備（輸液ポンプ） シーネ固定 ＊パーフェクト P173～P188	学内演習 クラス別	
10	【学内演習】小児看護に必要な技術② 与薬 行動制限 ＊パーフェクト P156～166.179 総論第6章C-3	学内演習 クラス別	
11	【学内演習】小児病棟における危険予知トレーニング 小児における不慮の事故の種類と原因 ＊各論第19章 国民衛生の動向	学内演習 レポート	演習と並行しレポートを課します。 期日までに提出。
12	小児看護学看護過程① 小児看護過程の特徴（事前準備・アセスメント） ＊配布資料	講義	授業終了後、個人ワークを行い、 期日までに提出。
13	小児看護学看護過程② アセスメント解説 小児看護過程の特徴（行動計画） ＊配布資料	個人ワーク 講義	授業終了後、個人ワークを行い、 期日までに提出。
14	小児看護学看護過程③ 行動計画解説 小児看護過程の特徴（まとめ） ＊配布資料	個人ワーク 講義	
15	終講試験	筆記試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 照林社
参考書・資料 等	国民衛生の動向 2021/2022 小児看護学概論・方法論Ⅰ～Ⅱにおいて配布された授業プリント
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ 小児看護学概論・方法論Ⅰ～Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	小児看護学実習 母性看護学実習
成績評価の方法	評価時期：終講試験…授業最終回（50分で実施） 課題提出物…指定期日までに提出していること（取り組み状況を評価） 評価配分：試験（外部講師:80点 古川:5点）課題（古川:15点）

その他 受講生への要望等	1.小児に特徴的な看護を学びます。基礎看護や成人看護がベースとなりますので復習した上で授業に臨んで下さい。 2.学内演習は基礎に準じて、身だしなみや演習を行って下さい。 3.看護過程はポイント学習となります。不明な点は質問して積極的に解決して下さい。 尚、本科目の単位修得は、小児看護学実習の履修前提条件となります。
-------------------------	--

授業科目名	母性看護学 方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師、助産師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	この授業では、母性看護の対象である妊産婦とその家族への基本的な看護について学習する。まずは妊娠の生理的変化や分娩の正常経過を理解すると共に、ハイリスク・異常妊娠、分娩についても学習する。また、妊産婦の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、看護に必要なアセスメントとセルフケア能力を高める援助について学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 妊娠の生理的な経過と異常妊娠について述べられる。 2. 分娩の正常な経過と異常分娩について述べられる。 3. 妊産婦の身体的・心理的・社会的特徴が述べられる。 4. 妊娠期・分娩期のアセスメントの視点が述べられる。 5. 妊娠期・分娩期の看護が述べられる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	正常な妊娠経過 ・妊娠の成立	講義	
2	妊娠経過に伴う妊婦の身体的変化 ・妊娠による不快症状	講義	
3	妊娠経過に伴う妊婦と家族の心理的・社会的変化 妊娠の診断・妊娠の受容 ・妊娠期に行う検査	講義	
4	胎児の発育・胎児の附属物とその役割 ・胎児の発育・胎児循環・新生児循環 ・胎盤・羊水・卵膜・臍帯	講義	
5	妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント ・妊婦健診 ・日常に関するアセスメント	講義	
6	妊婦健診・マイナートラブルへの対応 ・妊婦が受ける母子保健サービス ・妊婦の保健指導の実際	講義	
7	異常妊娠の理解と看護 ・ハイリスク妊娠 ・流早産・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病	講義	妊娠期の看護過程課題
8	妊娠期の事例展開	演習	

9	親になるための準備教育 分娩の要素① ・分娩の区分 ・分娩の経過	講義	
10	分娩の要素② ・分娩の3要素 ・分娩の機序	講義	
11	分娩の経過 ・分娩の進行に伴う産婦の身体的変化 ・分娩の進行に伴う産婦の心理・社会的変化	講義	
12	分娩の異常と看護	講義	
13	産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護	講義	分娩期の看護過程課題
14	分娩期の事例展開	演習	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	母性看護学方法論Ⅲ 母性看護学実習
成績評価の方法	看護過程課題 20%、終講試験 80%
その他 受講生への要望等	本科目の単位修得は、母性看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	母性看護学 方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	助産師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	この授業では、母性看護の対象である褥婦、新生児とその家族への基本的な看護について学習する。まずは産褥期の正常経過と新生児の生理的变化を理解すると共に、産褥期の異常と新生児の異常についても学習する。また、褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、看護に必要なアセスメントと基本的な援助技術について学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 産褥期の正常な経過と産褥期の異常について述べられる。 2. 新生児の生理的な経過と新生児の異常について述べられる。 3. 褥婦の身体的・心理的・社会的特徴が述べられる。 4. 産褥期・新生児期のアセスメントの視点が述べられる。 5. 産褥期・新生児期の看護が述べられる。 6. 新生児の清潔ケアの目的及び根拠、手順が述べられる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	産褥期の経過 ・産褥期の身体的変化 ・産褥期の心理的・社会的変化	授業	
2	産褥期のアセスメント① ・産褥経過の診断 ・褥婦の健康状態のアセスメント	授業	
3	産褥期のアセスメント② ・母子関係の構築 ・家族関係の再構築 ・育児技術	授業	
4	産褥期の異常 ・子宮復古不全 ・産褥熱 ・乳腺炎 ・産後うつ病	授業	
5	産褥期の看護① ・産褥体操 ・母乳栄養 ・退院後生活支援	授業	
6	新生児の生理 ・新生児とは ・胎児循環と新生児循環 ・新生児の機能 ・ビリルビン代謝と生理的黄疸 ・新生児の代謝と免疫 ・新生児の反射	授業	

7	新生児のアセスメント① ・出生直後の評価	授業	
8	新生児のアセスメント② ・子宮外生活適応状態	授業	
9	新生児の看護① ・新生児の看護の原則 ・出生直後の看護 ・出生後から退院までの看護	授業	
10	新生児の異常と看護① ・低出生体重児 ・高ビリルビン血症 ・新生児出血性疾患	授業	
11	産褥期の看護② ・事例展開	授業	産褥期の 看護過程課題
12	新生児の看護② ・事例展開	授業	新生児期の 看護過程課題
13	褥婦の退行性変化の観察	演習 (クラス別)	
14	沐浴・新生児計測	演習 (クラス別)	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	母性看護学実習
成績評価の方法	看護過程課題 20% (産褥期 10%、新生児期 10%) 終講試験 80% (産褥期 40%、新生児期 40%)
その他 受講生への要望等	尚、本科目の単位修得は、母性看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	精神看護学 方法論 I		
実務経験講師	○	実務経験	作業療法士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	人間の精神の健康・成長発達・社会適応の面からとらえ、人間の心のはたらき、精神障害者の地域生活を支えていくための援助、精神障害者のリハビリテーションについて学ぶ		
授業科目の到達目標	1. 現代社会における心のケアの問題と課題について説明することができる。 2. 精神保健の考え方の特長について「精神の健康」と「ストレス」の視点から説明することができる。 3. 心のしくみとパーソナリティの発達についての主要理論（エリクソン等）を説明することができる。 4. 家族と集団の機能について説明することができる。 5. 精神障害と法制度について説明することができる。 6. 精神障害者のリハビリテーションの概要について説明することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	現代社会における心のケアの問題と課題を考える Key:「DV・虐待」「自殺」「災害」「生きにくさ」 / 教科書 P2～P24, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。
2	精神保健の考え方（1） Key:「精神の健康」「中井久夫による精神健康の基準」「精神障害のとらえ方」 / P26～P38, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。
3	精神保健の考え方（2） Key:「ストレス」「危機」「心的外傷」「レジリエンス」 / P38～P52, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。
4	人間の心の諸活動 Key:「意識と認知機能」「感情」「心の理論」 / 教科書 P53～P70, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。
5	パーソナリティの発達（1） Key:「人格と気質」「エリクソンの理論」「フロイトの理論」「対象関係論」 / 教科書 P73～P106, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。
6	パーソナリティの発達（2） Key:「エリクソンの理論」「フロイトの理論」「対象関係論」 / 教科書 P73～P106, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解を深める。

7	パーソナリティの発達 (3) Key:「エリクソンの理論」「フロイトの理論」「対象関係論」 / 教科書 P73～P106, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解 を深める.
8	パーソナリティの発達 (4) Key:「対象関係論」「ボウルビーの理論」 / 教科書 P73～P106, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解 を深める.
9	関係の中の人間 (1) Key:「家族機能」「家族の構造」 / 教科書 P108～P128, 配付資料	試験	○ここまでの配布セル フチェックポイントの 確認をする.
10	関係の中の人間 (2) Key:「アディクション」「家族臨床の現在」「EE」 / 教科書 P108～P128, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解 を深める.
11	関係の中の人間 (3) Key:「集団」「集団のプロセス」「セラピーとしての集団」 / 教科書 P128～P143, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解 を深める.
12	精神障害と法制度 Key:「精神保健福祉法」「障害者総合支援法」「障害者虐待防止法」 「生活保護法」 / 教科書 P315～P366, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解 を深める.
13	精神障害者のリハビリテーション (1) Key:「リハビリテーションの諸概念」「リハビリテーションの実 際」 / 教科書 P274～P279, 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解 を深める.
14	精神障害者のリハビリテーション (2) Key:「人的資源」「社会資源」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェック ポイントをまとめ理解 を深める.
15	知識の整理と統合 Key:ここまでの授業のポイントの再確認をする.	試験	○試験による授業ポイ ントの再確認をする.

使用テキスト	「系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学①」医学書院.
参考書・資料 等	1)「パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版」萱間真美 編集. 照林社. 2)「アイデンティティとライフサイクル」エリク・H・エリクソン著. 誠信書房. 3)「心の臨床家のための<改訂>精神医学ハンドブック」小此木 啓吾・深津 千賀子・ 大野 裕 編. 創元社. 他
この授業科目の前提と なる主な科目	基礎分野全般、基礎看護学概論、精神看護学概論
この授業科目から発展 する主な科目	人間関係論Ⅱ、疾病治療論Ⅴ、公衆衛生学、社会福祉学、関係法規、 成人看護学方法論Ⅵ、精神看護学方法論Ⅱ、精神看護学方法論Ⅲ、看護の統合Ⅰ 精神看護学実習、在宅看護論実習、統合実習

成績評価の方法	筆記試験（100 点）
その他 受講生への要望等	人のこころ（深層心理）への関心を広げてください。 自身が臨地での実習を行っている状況をイメージして主体的に授業に取り組んでください。 尚、本科目の単位修得は、精神看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	精神看護学 方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	まず精神疾患にはどういった症状があるのか理解する。 そして精神科における治療とはどういうものか、実際に精神科ではどのような治療がおこなわれているのかについて学んでいく。 また精神疾患患者に関係する法律について理解する。 その上で各精神疾患についての特徴、症状、疫学、治療について学び、精神疾患についての理解を深める。		
授業科目の到達目標	1. 精神科ではどのような治療が行われているかを知ることができる 2. 精神科における薬物療法について学び、正確で安全な薬についての知識を得る 3. 精神科治療の薬物療法と並ぶ柱である精神療法とはどのようなものか、実際どのように用いられているのかを学ぶことができる 4. 人に直接はたらきかけるのではなく、環境や人々の日常生活にはたらきかける治療（環境療法・社会療法）について説明することができる 5. 精神疾患について専門的な理解を深めることができる 6. 精神疾患患者に関連する法律を理解することができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	【総論】 精神症状、状態像 （1）思考の障害（2）感情の障害（3）意欲の障害 （4）知覚の障害（5）意識の障害（6）記憶の障害 （7）知能の障害（8）見当識の障害（9）神経心理学的の 症状（局在症状、巣症状）失語、失行、失認 配布資料	講義	確認テスト （看護師国家試験過去問題）
2	診断、検査、法律 （1）診断の基礎と要点（2）検査 精神保健福祉法 心身喪失者等医療観察法	講義	確認テスト （看護師国家試験過去問題）
3	治療 （1）身体療法（2）精神療法（3）リハビリテーション	講義	確認テスト （看護師国家試験過去問題）
4	【各論】 精神疾患の分類 統合失調症	講義	確認テスト （看護師国家試験過去問題）

5	気分障害	講義	確認テスト (看護師国家試験過去問題)
6	神経症、摂食障害、パーソナリティ障害 (1) 神経症 (2) 摂食障害 (3) 睡眠障害 (4) 性に関する行動障害 (5) パーソナリティ障害	講義	確認テスト (看護師国家試験過去問題)
7	器質性精神障害 (認知症など)、薬物依存、てんかん (1) 器質性精神障害 (2) 症状精神病 (3) 精神作用物質使用による精神および行動の異常	講義	確認テスト (看護師国家試験過去問題)
8	終講試験		

使用テキスト	専門分野Ⅰ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	精神看護学方法論Ⅲ 精神看護学実習
成績評価の方法	終講時試験 100%
その他 受講生への要望等	授業中、私語は慎んで授業を受けるようにしましょう。 尚、本科目の単位修得は、精神看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	精神看護学 方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	精神看護は、心の健康問題への援助を必要としている人々に対し、個人の尊厳と権利を擁護し、自律性の回復やその人らしい生活を送れるよう支援することが基本となっています。この基本を踏まえ、精神障害をもつ対象とのかかわり方やケアの方法、リスクマネジメント、疾患別の看護の知識などを学びます。また、事例を通して精神疾患の理解及び治療や看護の特徴などを踏まえ看護過程の展開をすることでその人らしい生活を送れるよう対象のニーズに合わせた援助方法について考えていきます。		
授業科目の到達目標	1. 精神障害をもつ対象とのかかわり方やケアの方法について説明できる。 2. 患者の安全を守るためのリスクマネジメントについて説明できる。 3. 疾患別の看護について述べられる。 4. 事例演習を通して精神障害をもつ対象の看護問題を捉え、対象のニーズに合わせた看護を見い出すことができる。 5. 対象との関係をアセスメントすることの意味と方法について説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	<u>精神障害をもつ対象へのケアの基本的方法</u> 患者の接近の仕方、言語を介した患者との関わり方など ケアの基本 テキスト：精神看護学②	講義	
2	<u>回復を助ける・安全をまもる</u> 精神障害をもつ対象の回復を支える治療的環境やアプローチ、 リスクマネジメントの考え方と方法、緊急事態の 対処方法や予防 テキスト：精神看護学②	講義	
3	<u>身体をケアする</u> 抗精神病薬の有害反応の予防と対処法や精神科における 身体ケアの実際 テキスト：精神看護学②	講義	
4	<u>統合失調症患者の看護</u> 統合失調症患者のアセスメントの視点や関わり方 テキスト：精神看護学①②	講義	
5	<u>気分障害患者の看護</u> 気分障害患者のアセスメントの視点や関わり方	講義	

	テキスト：精神看護学①②		
6	<u>摂食障害・パーソナリティ障害・アルコール症患者の看護</u> 疾患別の看護の基本 テキスト：精神看護学①	講義	
7	<u>看護過程の展開①</u> 精神看護における看護過程のポイントと進め方 情報の整理・分類 「看護過程様式1号・2号」	講義	
8	<u>看護過程の展開②</u> 充足・未充足の判断 関連図 「看護過程様式5号」	個人ワーク	
9	<u>看護過程の展開③</u> 充足・未充足の判断 関連図 「看護過程様式5号」	個人ワーク	看護過程様式 1号・2号・5号 提出
10	<u>看護過程の展開④</u> 情報の整理・分析 「看護過程様式4号」	個人ワーク	
11	<u>看護過程の展開⑤</u> 情報の整理・分析 「看護過程様式4号」	個人ワーク	看護過程様式 4号提出
12	<u>看護過程の展開⑥</u> 看護計画 「看護過程様式6号」	個人ワーク	
13	<u>看護過程の展開⑦</u> 看護計画 「看護過程様式6号」	グループワーク	実習記録様式 6号提出
14	<u>援助関係の構築（プロセスレコード）</u> 関係をアセスメントすることの意味と方法、プロセスレコードの 書き方 テキスト：精神看護学②	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護
参考書・資料 等	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ、基礎看護学方法論Ⅱ、 基礎看護学方法論Ⅵ、臨床看護総論、精神看護学概論、人間関係論Ⅱ、疾病治療論Ⅴ、

	公衆衛生学、社会福祉学、関係法規、成人看護学方法論Ⅵ、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱ、看護の統合Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	精神看護学実習、在宅看護論実習、統合実習
成績評価の方法	①提出物 30% ②終講時試験 70%
その他 受講生への要望等	精神看護における難しさは、同じ病名でも対象者個々により、その病態像は様々でありこのような曖昧で不明確な状況においても、エビデンスに基づいた看護が求められるという点です。方法論Ⅲでは、疾患別の看護の基本知識を得るとともに、対象に向き合っていく姿勢も養っていきましょう。尚、本科目の単位修得は、精神看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	在宅看護論概論		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	現在、日本では急速に進む高齢化を背景に、高齢者のみならず障害者を含む地域のすべての人々が可能な限り住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを続けられるよう「地域包括ケアシステム」の構築が推進されています。そのため、看護の場も病院のみならず地域全体に渡っており、看護の対象も疾病や障害を持つ人のみならず、健康な人も含む乳幼児から高齢者まで、すべてのライフサイクルにある人々です。 本科目では、在宅看護が必要とされる社会的背景を学び、さらに多岐にわたる在宅看護の場と対象、それぞれの場での在宅看護の役割と機能について学ぶことを目的としています。 そして、地域では様々な職種が連携しながら療養者や家族の生活を支えています。既習の知識を基に、制度や療養者に関わる職種について学び、それぞれの役割や連携をすることの必要性について考える。また、療養者と家族の権利保障についても学び、尊厳を守り権利を尊重することの重要性について考えることを目指します。		
授業科目の到達目標	1 在宅看護が必要とされる社会背景について述べることができる 2 在宅看護の場、対象について述べるができる 3 現代における家族の特徴と家族への支援について述べるができる 4 在宅ケアにおける関係機関、関係職種について述べるができる 5 在宅ケアにおける連携、協働の重要性に気づくことができる 6 在宅療養者の権利を擁護する制度を述べるができる 7 施設内看護の特徴と在宅療養移行期における看護の役割について述べるができる 8 在宅療養各期における看護の役割について述べるができる 9 地域包括ケアシステムについて述べるができる 10 地域包括支援センターの役割と機能について述べるができる 11 保健所、市町村保健センターの役割と機能について述べるができる 12 地域における看護職の活動・役割について述べるができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	講義：在宅看護とは、地域看護・在宅看護の変遷 使用テキスト：①②（毎回2冊用意すること）	講義 授業資料配布	課題：講義前に使用テキストを読んでおくこと（毎回同様）
2	講義：在宅看護を取りまく社会背景、在宅看護の必要性	講義 授業資料配布	
3	講義：在宅看護の対象、在宅療養を必要としている人々	講義 授業資料配布	
4	講義：看護学における家族の概念、在宅看護における家族支援	講義 授業資料配布	

5	講義：在宅看護における在宅療養者の権利擁護、 成年後見制度と苦情対応、高齢者虐待防止法	講義 授業資料配布	
6	講義：継続的な医療・看護（継続看護）の必要性和在宅療養 移行期（入退院時）における看護の役割	講義 授業資料配布	
7	講義：在宅ケアにおけるチームアプローチ（連携、協働の重要性） 在宅ケアにおける関係機関、関係職種	講義 授業資料配布	
8	講義：在宅看護に関する法制度（医療保険、難病法等）	講義 授業資料配布	課題： 実習事前学習用プリント 3
9	講義：ケアマネジメントの概念、介護保険制度と在宅看護	講義 授業資料配布	課題： 実習事前学習用プリント 4
10	講義：地域包括ケアシステムと看護の役割 地域包括支援センターの役割と機能	講義 授業資料配布	課題： 実習事前学習用プリント 2
11	講義：施設内看護（介護関連施設）の特徴と看護の役割	講義 授業資料配布	
12	講義：地域看護と在宅看護 1、市町村の役割と活動の実際 各種保健事業と根拠となる法律、施策	講義、DVD 視聴 授業資料配布	課題： 実習事前学習用プリント 1
13	講義：地域看護と在宅看護 2、保健所の役割と機能	講義 授業資料配布	
14	講義：諸外国の在宅看護と日本の在宅看護の今後の課題 在宅における災害看護	講義 授業資料配布	
15	終講試験		

使用テキスト	①医学書院 系看・統合分野 在宅看護論 ②メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論①
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ、関係法規、社会福祉、公衆衛生学 基礎看護学概論 基礎看護学臨床看護総論 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ～Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	在宅看護論方法論Ⅰ～Ⅲ 看護の統合Ⅰ～Ⅲ 臨地実習 在宅看護論実習 看護の統合実習
成績評価の方法	評価時期：終講時 定期試験 評価対象および配分：終講試験（95 点）出席状況（5 点、一回欠席でマイナス 1 点）
その他 受講生への要望等	・ 予習として、提示されたテキストを読んでから授業に臨んで下さい。 ・ 尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件となります。

授業科目名	在宅看護論 方法論 I		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	本科目では、訪問看護の対象と機能、役割について学ぶことを目的とします。現在、退院調整は入院時から始まっており、継続看護の重要性や各療養者に合わせた他職種連携、社会資源の活用方法についても学習します。 現在、地域包括ケアシステムにおいて「自宅での看取り」が重要な課題とされています。看取りまでも含めた療養者と家族への支援は訪問看護にとって重要な役割となり、事例を通して学び自己の死生観を考える機会とします。また、対象理解だけではなくコミュニケーション技術やマナーも学び、信頼関係を構築することの重要性について考えることを目指します。		
授業科目の到達目標	1 訪問看護ステーションの概要について述べることができる 2 訪問看護に関わる制度と社会資源の活用について述べることができる 3 各療養期における訪問看護師の役割について述べることができる 4 療養者および家族の価値観やニーズの尊重と、信頼関係を構築する重要性について気づくことができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	講義： 訪問看護の形態と訪問看護活動 訪問看護ステーションの運営	講義	
2	講義： 訪問看護の方法と流れ	講義	
3	講義：在宅療養と社会資源、社会資源の理解 (フォーマルとインフォーマル)	講義	
4	講義：在宅看護の対象理解（認知症高齢者） 認知症高齢者への支援を考える	講義	
5	講義：在宅看護の対象理解（身心障害、精神） 障害者自立支援法および支援について考える	講義	
6	講義：在宅看護の対象理解（難病療養者） 在宅難病患者の支援について考える	講義	
7	講義：在宅看護の対象理解（小児） 在宅における小児の支援について考える	講義	
8	講義：在宅看護の対象理解（終末期） 終末期患者の支援について考える	講義	

9	講義：訪問看護におけるコミュニケーションとマナー コミュニケーション技術と信頼関係の構築	講義	課題：事例を通し、コミュニケーションの重要性についてレポートに考えを記載する
10	講義：訪問看護演習の演習方法について 演習：グループワーク① 事例の状況設定 (療養者の情報、家族の情報を設定、 訪問看護導入について状況を設定)	講義 演習	課題：設定した事例を基に必要な社会資源の内容について調べておく。 次回の授業までに療養者の情報、家族の情報を設定、訪問看護導入について状況を設定し、事例設定用紙に記載しておくこと。
11	講義：事例における社会資源の設定方法について 演習：グループワーク② 事例の状況設定（社会資源の内容、訪問場面）	講義 演習	課題：事例に合わせた訪問看護の役割について調べておく。 次回の授業までに事例の状況設定（社会資源の内容、訪問場面）について状況を設定し、事例設定用紙に記載しておくこと。
12	講義：訪問場面（シナリオ）の記載方法について 演習：グループワーク③ 事例の状況設定（社会資源の内容、訪問場面）	講義 演習	課題：次回の授業までに事例の状況設定（社会資源の内容、訪問場面）を訪問場面（シナリオ）記載用紙し、教員へ提出すること。
13	演習：訪問看護演習（ロールプレイ）発表会	演習	課題：演習振り返り用紙を記載する。 提出日時は当日提示する。
14	演習：訪問看護演習（ロールプレイ）発表会	演習	課題：同上
15	終講試験		

使用テキスト	①医学書院 系看・統合分野 在宅看護論 ②メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論① ③医学書院 系看 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①
参考書・資料 等	同上
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅳ、関係法規、社会福祉、公衆衛生学、 疾病治療論Ⅱ・Ⅴ、基礎看護学概論、基礎看護学臨床看護総論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅴ 成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、 成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ、老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、 精神看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、在宅看護論概論
この授業科目から発展する主な科目	在宅看護論方法論Ⅱ～Ⅲ、看護の統合Ⅰ～Ⅲ、 臨地実習、在宅看護論実習、看護の統合実習
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：石野 40点 終講時試験

	高森 60 点 グループワークの内容および参加時の態度（10 点） レポート（10 点）、終講時試験（40 点）
その他 受講生への要望等	・ 予習として提示されたテキストを読んでから授業に臨むこと。 ・ 課題学習時間を活用してグループワークをすすめること。 ・ レポートは評価の対象となるため、やむを得ない事情を除いて提出期日を厳守すること。 提出期日に遅れた場合、追評価（8 割）とする。 ・ 尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件とする。

授業科目名	在宅看護論 方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	本科目では、在宅看護における訪問看護援助の実際を学び、在宅看護に必要な援助技術を学ぶことを目的とします。在宅では、様々な健康段階にある療養者が療養しています。また、現在、在宅医療を必要とする療養者も増えています。療養者が適切な在宅医療を受けながら安全安楽に生活できるよう支援することも訪問看護師の重要な役割となります。対象を生活者として捉え、それぞれの環境に応じた援助技術を学ぶことを目標とします。また、各健康段階に合わせた社会資源の活用の実際、関係職種の連携についても学習します。		
授業科目の到達目標	1 在宅における基本的日常生活援助に関する援助の工夫について述べることができる 2 在宅療養者の症状・状態別看護のポイントについて述べることができる 3 特殊な医療技術を伴う援助のポイントについて述べることができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	講義：訪問看護の基本技術、安全性と経済性の確保 配布資料：シラバスおよび授業資料 使用テキスト：①	講義	課題：使用テキスト①を読んでおくこと
2	講義：在宅における日常生活援助 活動、環境、住宅改修について 配布資料：授業資料 使用テキスト：①・②	講義	課題：使用テキスト②を読んでおくこと
3	講義：在宅における日常生活援助 清潔、在宅で求められる援助の工夫 配布資料：授業資料 使用テキスト：①・②	講義	課題：使用テキスト①②を読んでおくこと
4	講義：在宅における日常生活援助 食生活、排泄 配布資料：授業資料 使用テキスト：①・②	講義	課題：使用テキスト①②を読んでおくこと
5	講義：在宅における日常生活援助 呼吸の援助、服薬管理 配布資料：授業資料 使用テキスト：①・②	講義	課題：使用テキスト①②を読んでおくこと

6	講義：在宅における日常生活援助 在宅リハビリテーション、生活指導技術 配布資料：授業資料	講義	課題：本講座第2回目講義資料 (在宅における日常生活援助：活動、環境、住宅改修について)を復習しておくこと。
7	講義：在宅療養者の症状・状態別看護 脳血管疾患、パーキンソン病 配布資料：授業資料 使用テキスト：①	講義	課題：脳梗塞、脳出血、パーキンソン病の看護について復習しておくこと 使用テキストを読んでおくこと。
8	講義：在宅療養者の症状・状態別看護 認知症、独居高齢者 配布資料：授業資料 使用テキスト：①	講義	課題：認知症高齢者の看護について復習しておくこと。 使用テキストを読んでおくこと。
9	講義：在宅療養者の症状・状態別看護 小児、終末期 配布資料：授業資料 使用テキスト：①・②	講義	課題：脳性麻痺の看護について復習しておく。 小児に関する社会資源について テキスト②を読んで復習しておくこと。 使用テキストを読んでおくこと。
10	講義：在宅療養者の症状・状態別看護 ALS、COPD 配布資料：授業資料 使用テキスト：①	講義	課題：ALS、COPDの看護について復習しておくこと。
11	講義：特殊な技術を伴う在宅看護① 排泄：膀胱留置カテーテル法、自己導尿、 ストーマ管理、褥瘡管理 配布資料：授業資料 使用テキスト：①	講義	課題：本講座第4回目講義資料を復習しておくこと。
12	講義：特殊な技術を伴う在宅看護② 食生活：経管栄養法、経腸栄養法、在宅中心静脈 栄養法 配布資料：授業資料 使用テキスト：①	講義	課題：本講座第4回目講義資料を復習しておくこと。
13	講義：特殊な技術を伴う在宅看護③ 呼吸：在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気法 在宅人工呼吸療法 配布資料：授業資料 使用テキスト：①	講義	課題：本講座第5回目講義資料を復習しておくこと。

14	講義：特殊な技術を伴う在宅看護③ 呼吸：気管口腔ケア 配布資料：授業資料 使用テキスト：①	講義	課題：本講座第5回目、13回目 講義資料を復習しておくこと。
15	終講試験		

使用テキスト	①医学書院 系看・統合分野 在宅看護論 ②メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論①
参考書・資料 等	同上
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅳ、疾病治療論Ⅱ・Ⅴ、基礎看護学Ⅰ～Ⅴ、成人看護学方法論Ⅱ～Ⅳ、老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、在宅看護論概論、在宅看護論方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	在宅看護論方法論Ⅲ 臨地実習 在宅看護論実習
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：終講時試験 配点（柿沼：40点 鮎澤：30点 瀬下：30点）
その他 受講生への要望等	・ 予習として提示されたテキストを読んでから授業に臨んで下さい。 ・ 尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件となります。

授業科目名	在宅看護論 方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	本科目では、事例を通し在宅看護を効果的に展開するための方法を学ぶことを目的とする授業科目です。看護過程では、療養者だけでなく家族および介護力、住環境、社会資源、経済力に関する分析を行い、疾病や障害を抱えながら生活していく上での問題点を明確にし、訪問看護師としてどのような看護介入ができるか考えることを目標とします。又、退院に向けての支援を考えることで継続看護の重要性を学ぶことも目標とします。看護計画の立案に至っては、療養環境に合わせた援助や介護者が継続して実施できる方法を考慮した計画を考えます。また、訪問看護師にとって多職種や関係機関との連携、調整や社会資源の関するケアマネジメントも必要な役割となります。必要となる社会資源、支援連携図を通して、社会資源の活用および関係職種の連携を考えられることも目指します。		
授業科目の到達目標	1 疾病や障害を抱えながら生活していく上での問題点を明確にし、療養環境に合わせた援助計画が立案できる 2 家族介護力について分析し、家族への支援内容について記述することができる 3 療養生活を継続させるために必要な社会資源について、療養者と家族のニーズに合わせたケアマネジメントができる 4 退院後、安心した療養生活が継続できるための支援について述べることできる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	講義：在宅看護過程展開のポイント 在宅看護過程における情報収集内容、方法	講義	【事前課題】 事例と特徴をつかむ。 脳梗塞の疾患、治療、看護、 高次脳機能障害についての 病態と看護をまとめる。
2	講義：在宅看護過程における情報収集内容のリフレクション 演習：療養環境の観察および情報収集 基礎情報の整理	講義、演習 (紙上事例)	課題は、演習で終了しなかった情報の整理とします。基礎情報用紙は、後日、提出期日を設け提出とします。
3	講義：在宅看護におけるアセスメントの視点 事例における全体像と看護介入の方向性 演習：事例におけるアセスメント（姿勢・活動）	講義、演習 (紙上事例)	課題は演習で終了しなかったアセスメントの記載とします。次回、看護計画の立案になるため、必ず終了させておいてください。

4	講義：目標設定～看護計画の立案について 演習：事例における目標設定～看護計画の立案（姿勢・活動）	講義、演習 （紙上事例）	課題は演習で終了しなかった目標設定～看護計画の立案の記載とします。 後日、提出期日を設け提出とします。
5	講義：在宅看護におけるアセスメントについてのリフレクション 演習：事例におけるアセスメント（清潔）	講義、演習 （紙上事例）	課題は演習で終了しなかったアセスメントの記載とします。次回、看護計画の立案になるため、必ず終了させておいてください。
6	講義：目標設定～看護計画の立案について 演習：事例における目標設定～看護計画の立案（清潔）	講義、演習 （紙上事例）	課題は演習で終了しなかった目標設定～看護計画の立案の記載とします。 後日、提出期日を設け提出とします。
7	講義：在宅療養を支える関係機関、職種と連携について 多職種における看護職の役割について 演習：事例における支援連携図の作成	講義、演習 （紙上事例）	課題は演習で終了しなかった支援連携図の作成の記載とします。 最終提出日に提出とします。
8	講義：社会資源とケアマネジメント 本講座のリフレクション 演習：今後考えられる社会資源および援助について記載する。 考えた社会資源を事例における支援連携図に追加記載する。 在宅看護過程の振り返りを記載する。	講義、演習 （紙上事例）	課題は演習で終了しなかった「今後考えられる社会資源および援助」の作成と支援連携図の追加および在宅看護過程の振り返りの記載とします。 最終提出日に提出とします。

使用テキスト	①医学書院 系看・統合分野 在宅看護論 ②メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論①
参考書・資料 等	ヌーベルヒロカワ 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 医歯薬出版株式会社 在宅看護体験学習ノート 医学書院 系看・専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院 系看・専門分野Ⅱ 成人看護学 [7]脳・神経 メディックメディア 病気がみえる⑦脳・神経
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅳ、疾病治療論Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ、 基礎看護学Ⅰ～Ⅴ、在宅看護論概論、在宅看護論方法論Ⅰ、 老年看護学方法論Ⅰ、老年看護学方法論Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合Ⅰ～Ⅲ 臨地実習、在宅看護論実習、看護の統合実習

成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：別紙評価表に準じて、事前学習内容および看護過程レポートにより評価する。 事前学習および態度 10 点、看護過程レポート 90 点
その他 受講生への要望等	・ 予習としてテキストを読んでから授業に臨んで下さい。 ・ 提出物は、提出期日を厳守すること。期日を過ぎた場合には評価外とします。 ・ 尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件となります。

授業科目名	看護の統合と実践 臨床看護実践論		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	この授業では、ヘンダーソンの看護論を用いた看護過程の展開方法を、より実践的な様式に変えてその使い方、考え方を学習する。更に看護計画が行動計画にどのように反映するのかを学び、臨地実習へのイメージを高める。		
授業科目の到達目標	1. ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開方法が分かる。 ①14 項目の基本的ニードには優先順位と、関連性があることが分かる。 ②アセスメントから評価まで一貫性があることが分かる。 2. 看護計画を基に行動計画が立案できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	ヘンダーソンの看護論に基づいた看護過程の構成要素（復習） 事例紹介 事前学習のポイント	講義	事前学習 解剖生理/病態生理/関連図/ 検査/治療/看護等
2	看護過程記録用紙に関して 事例展開 1：情報収集、情報の整理・分析	講義	様式 1 号～ 3 号 事前学習の追加
3	事例展開 2：不足情報の追加、意図的な情報収集 情報の整理・分析、充足・未充足の判断	講義	様式 1 号～ 3 号
4	事例展開 3：充足・未充足の判断 全体関連図	講義	様式 3 号（充足・未充足） 全体関連図
5	事例展開 4：アセスメント～看護問題の成文化	講義	様式 4 号（アセスメント）
6	事例展開 5：看護問題の成文化～計画立案	講義	様式 4 号（計画立案）
7	事例展開 6：行動計画	講義	行動計画用紙
8	事例展開 7：実施・評価	講義	様式 4 号（実施・評価） 様式 5 号（振り返り・自己課題の明確化）

使用テキスト	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーベルヒロカワ） ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ヌーベルヒロカワ） 症状別看護ケア関連図（中央法規）
--------	---

参考書・資料 等	基礎看護学方法論Ⅵ 授業資料
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学方法論Ⅵ
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論Ⅴ 老年看護学方法論Ⅲ 小児看護学方法論Ⅲ 在宅看護論方法論Ⅲ 精神看護学方法論Ⅲ
成績評価の方法	レポート課題 100 点
その他 受講生への要望等	実習では限られた時間で看護過程を展開します。臨床看護実践論は、より実践的な思考過程の練習になるので、基本となる基礎看護学方法論Ⅵの授業を各自復習してから授業に臨んでください。

授業科目名	看護の統合と実践 看護の統合 I		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	看護管理システムを学ぶことで、チーム医療の重要性やリーダーシップ、メンバーシップ能力の必要性を理解します。さらに、医療現場における倫理的判断の必要性を学びます。 安全で質の高い医療・看護を提供するために、医療安全の基礎的知識を学びます。人間の特性を前提とし、事故が起きやすい状況や背景、また回避するための方策を、知識だけではなく、その知識に基づいたリスク感性を磨き、身近な状況設定のなかで考え、判断し、対策を実行できるよう、実際に即して学びます。		
授業科目の到達目標	1. 医療事故・過誤防止について、看護師に必要な知識・技術が理解できる。 2. 看護師が持つべき倫理的責任について理解できる。 3. 看護をマネジメントできるための看護の組織・管理の基本が理解できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	【医療安全】 医療事故の概念 (医療事故と看護業務、自己の構造と考え方)	講義	事前：P8～37
2	【医療安全】 診療の補助の事故防止 (注射業務、輸液ポンプ、シリンジポンプ、輸血、内服)	講義	事前：P40～114
3	【医療安全】 診療の補助の事故防止 (経管栄養、チューブ管理)	講義	事前：P115～135
4	【医療安全】 療養上の世話における事故防止 (転倒・転落、窒息、誤嚥防止、異食、入浴中事故)	講義	事前：P138～185
5	【医療安全】 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 インシデント・アクシデント、 看護師の労働安全衛生上の事故防止	講義	事前：P188～234
6	【医療安全】 組織的な安全管理体制への取り組み (医療安全体制、安全対策委員会、練習問題)	講義	事前：P236～284
7	【看護管理】 組織の成り立ちと管理論	講義	資料参照
8	【看護管理】 リーダーシップとメンバーシップ	講義	資料参照

9	【看護管理】看護管理の基本 (1) 看護管理の概念 (2) 定義・目的・機能評価	講義	資料参照
10	【看護管理】 看護業務と労働条件・看護管理の職務を行う場	講義	資料参照
11	【看護管理】 コミュニケーション 体験を通して伝えたいこと	グループ ワーク	資料参照
12	【看護倫理】 看護倫理（ビーチャムとチルドレス・サラフライ）	講義	資料参照
13	【看護倫理】 看護実践と看護師の倫理綱領	講義	資料参照
14	【看護倫理】 拘束の事例より	講義	資料参照
15	終講試験		

使用テキスト	上泉和子著者：系看 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院．2018. 川村治子著者：系看 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 医学書院．2018.
参考書・資料 等	茂野香おる著者：系看 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論 医学書院．2016.
この授業科目の前提となる主な科目	専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ全般
この授業科目から発展する主な科目	臨地実習全般
成績評価の方法	終講試験
その他 受講生への要望等	専門分野Ⅰ、Ⅱ、統合分野の授業科目の単位が取得できない場合、当該領域の臨地実習を履修できません。

授業科目名	看護の統合と実践 看護の統合Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師、助産師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	国際看護では、医療サービスを担う専門職として、異文化への理解を深め、グローバルな視点で看護を考えます。さらに、感染看護では、医療安全の基本概念を理解し、社会の医療安全ニーズに応えられる知識を習得し、その実践を考えます。 災害看護では、災害時に適切な看護ケアを提供するために、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、人々の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割についても学びます。		
授業科目の到達目標	1. 災害の定義と災害看護、災害時の看護活動が理解できる。 2. 医療安全の知識をふまえ、感染症看護について理解できる。 3. 諸外国における保健医療の現状を学び、国際協力・国際支援について考えを深めることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	【国際看護】 国際社会の現状と課題	講義	事前：P210～220
2	【国際看護】 異文化理解、国際看護の実際	講義	事前：P251～272
3	【国際看護】 グローバルヘルス、国際協力のしくみ	講義	事前：P220～237
4	【国際看護】 文化を考慮した看護、国際看護展開	講義	事前：P237～250
5	【国際看護】 国際看護－国際救援と看護	講義	事前：P272～300
6	【感染看護】 成人看護 感染対策	講義	資料参照
7	【感染看護】 成人看護 感染対策	講義	資料参照
8	【災害看護】 災害看護に関する基礎知識 (概要・特徴・CSCATTT 等)	講義	事前：P21～77
9	【災害看護】 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 (急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期)	講義	事前：P78～142

10	【災害看護】 被災者特性に応じた災害看護の展開	講義 シミュレーション	事前：P143～169
11	【災害看護】 災害とこころのケア 災害がもたらす精神的影響	演習 シミュレーション	事前：P171～188
12	【災害看護】 救護活動の実際 災害支援のポイント	講義	事前：P201～213
13	【災害看護】 避難所設営と支援のポイント	演習 グループワーク	事前：P214～224
14	【災害看護】 避難所設営と支援のポイント	演習 グループワーク	事前：P214～224
15	終講時試験		

使用テキスト	浦田喜久子・小原真理子編集：系看 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護・国際看護学 医学書院、2022
参考書・資料 等	災害看護学学習テキスト 日本看護協会
この授業科目の前提となる主な科目	専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ全般
この授業科目から発展する主な科目	臨地実習全般
成績評価の方法	終講試験 100% 配点：[] 20点、[] 40点、[別井] 10点、[三浦] 30点
その他 受講生への要望等	専門分野Ⅰ、Ⅱ、統合分野の授業科目の単位が取得できない場合、当該領域の臨地実習を履修できません。